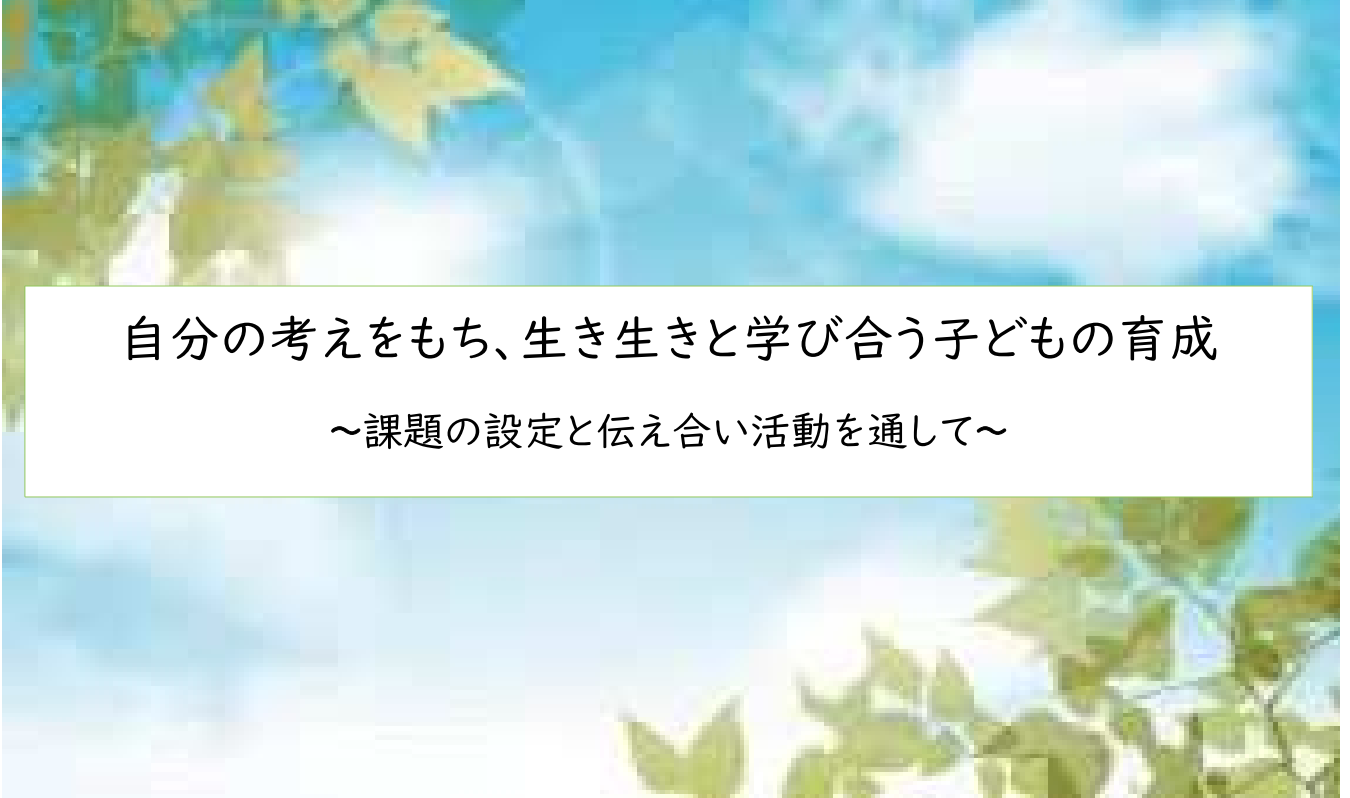


令和3・4年度大分県租税教育 推進協議会委嘱

租税教育公開研究発表会

研究紀要



自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

令和4年11月9日(水)

大分市立下郡小学校

あいさつ

本校は、大分市中心部より東へ3kmほどに位置し、下郡バイパスと米良バイパスに挟まれた市街地にあります。22年前、大分市立滝尾小学校の児童数増加により、分離新設された学校でもあります。開校当初は児童数が550名ほどで各学級3学級でしたが、現在では児童数約730名を超えています。

近年、教育をめぐる社会情勢をみると、急速なグローバル化と新型コロナウイルス感染症対策としての一人1台端末の活用による高度情報化が挙げられ、私たちの予想をはるかに超える速さで進んでいます。このような社会を生きていく子ども達には、何が重要かを主体的に判断しながら、社会をどう描くかを考え、多様な他者と協働して課題を解決していくための力をつけることが強く求められます。本県の租税教育は、まさにこの教育課題を正面からとらえ、長年、小・中学校の研究指定校が真摯に取り組み、貴重な研究成果を残してきております。

本校においては、令和3年度に大分県租税教育推進協議会より租税教育研究校の委嘱を受け、2年間にわたり、研究を進めてまいりました。この2年間の研究の中で、令和3年11月2日付、第13回租税教育推進関係省庁等協議会における合意確認事項「3 租税教育の充実に向けた具体的取組」の「② 児童生徒の日常の社会生活と関連付けながら具体的な事例を取り上げ、財政及び租税の意義や役割など、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために必要な知識及び技能を習得するとともに、それらを活用し考察するなど、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する」を受け、研究主題を「自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成～課題の設定と伝え合い活動を通して～」と設定し、大分県教育委員会、大分市教育委員会のご指導のもと、算数科、体育科、「特別の教科 道徳」で、それぞれ租税教育との関わりを図りながら、研究を進めているところです。

本発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの方々の参加はできませんでしたが、Zoom機能の活用により、一般に公開することといたしました。ご参会の皆様には、忌憚のないご意見をいただき、本校の今後の教育活動や校内研究に生かしていきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究大会を開催するにあたり、ご指導・ご支援いただきました大分県租税教育推進協議会、大分県教育委員会、大分市教育委員会、関係諸機関並びに各位に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

令和4年11月

大分市立下郡小学校
校長 野村 尚生

令和3・4年度大分県租税教育推進協議会委嘱(2年次)

租税教育公開発表会

要項

1. 期日 令和4年11月9日(水)

2. 研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

3. 日程

13:00~13:20	13:20~13:50	14:00~14:45	15:00~15:40	15:50~16:10
受付 (体育館)	開会行事 (まんぷく堂)	提案授業 (各会場)	事後研 (各会場)	閉会行事 (まんぷく堂)

4. 開会行事(13:20~13:50 まんぷく堂)

- 司会・進行 (主幹教諭 植田 聖紀)
- (1)開会のことば (主幹教諭 植田 聖紀)
- (2)校長あいさつ (校長 野村 尚生)
- (3)来賓あいさつ (大分県教育庁参事監兼義務教育課課長 武野 太)
(大分市教育委員会教育長 佐藤 光好)
- (4)来賓紹介 (教頭 藤田 光茂)
- (5)検証授業について (研究主任 秋吉 雅代)
- (6)閉会のことば (主幹教諭 植田 聖紀)

5. 提案授業(14:00~14:45 各授業会場)

学年	授業者	教科	単元名	授業会場
6年	櫻木 美津代	算数	データの見方	6-2
5年	安部 修平	道徳	働く幸せ~チョーク工場の本田さん~	5-4
3年	佐藤 優介	体育	みんなが楽しめるプレルボールをしよう	体育館

6. 事後研(15:00~15:40)

学年	司会者	指導・助言者	事後研会場
6年	竹本 勸人	大分市教育委員会学校教育課 指導担当班参事補 小畑 典子	外国語 ルーム
5年	藤本 祥子	大分市教育委員会学校教育課 指導担当班指導主事 安藤 嘉洋	音楽室
3年	遠藤 太輔	大分県教育庁義務教育課 義務教育指導班指導主事 吉住 聡	地域会議室

7. 閉会行事 (15:50~16:10 まんぷく堂)

- | | |
|-----------|------------------------|
| ○司会・進行 | (主幹教諭 植田 聖紀) |
| (1)開会のことば | (主幹教諭 植田 聖紀) |
| (2)研究の概要 | (研究主任 秋吉 雅代) |
| (3)指導・講評 | (大分県教育庁義務教育課指導主事 吉住 聡) |
| (4)教頭あいさつ | (教頭 藤田 光茂) |
| (5)閉会のことば | (主幹教諭 植田 聖紀) |



目次

I 研究の概要

1. 研究主題	…1
2. 主題設定の理由	
(1) 学校教育目標から	…1~2
(2) 児童の実態	…2~3
(3) 部会研究仮設	…3
3. 研究内容	…3
4. 研究組織	…4
5. 研究方法	…4
6. 租税教育全体計画	
(1) 全体計画	…5
(2) 各学年の指導計画	…6~11
7. 研究の経過(令和3年度・4年度)	…12~15

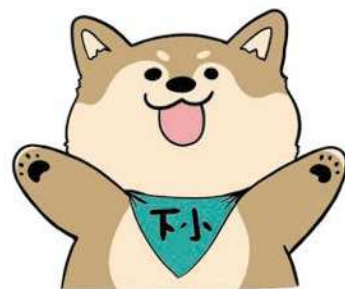
II 実践の記録

1. 検証授業(令和3年度)指導案及び検証授業のまとめ	
(まなび部) 2年生算数科	…16~21
(こころ部) 2年生道徳科	…22~27
(からだ部) 4年生体育科	…28~33
2. 検証授業(令和4年度)指導案	
(まなび部) 6年生算数科	…34~40
(こころ部) 5年生道徳科	…41~46
(からだ部) 3年生体育科	…47~51
3. 租税教室	
(1) 租税教室の経過(令和3年度・4年度)	…52
(2) 令和3年度6年生第2回租税教室	…53
(3) 令和4年度各学年租税教室(2・4・5・6年生)	…54~57

III 研究のまとめ	…58~63
------------	--------

○研究同人

I 研究の概要



I 研究の概要

1. 研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

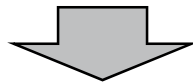
本校の教育目標は、「夢に向かい 学び合い、認め合い、鍛え合う 主体的に生きる子どもの育成」である。この目標に向け、教職員は、「まなび部(知)」「こころ部(徳)」「からだ部(体)」の3つの部会のいずれかに所属し、授業研究・学習内容の定着状況・学習規律についてや行事・家庭地域との連携等についての分析や提案、実施と見直しを行い、学年部での共有をすることで日々の教育活動を進めている。

【学校教育目標】

夢に向かい 学び合い、認め合い、鍛え合う
主体的に生きる子どもの育成

【重点目標】

まなび よく考えて学びを深める子どもの育成
こころ 自分の行動を振り返り、周りを思いやる子どもの育成
からだ めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子どもの育成



【租税教育研究主題】

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

【研究テーマ】

「課題の設定」と「伝え合い活動」

◇生き生きと学び合う子どもとは・・・

子どもたちが自ら課題をもつことで、子どもたちは「学びたく、伝えたく、意欲的に取り組むたく」なる。さらに、話し合いの場の設定や伝え合い活動の工夫をすることで、友だちと伝え合う喜びを知る。また、自ら意欲的に学びに向かうことで、「わかった、できた」「うれしい」という気持ちが育まれる。そして、生き生きと学び合う子どもが増えていく。生き生きと学びに向かう子どもは、学校生活だけでなく、社会生活の中でも学んだことを生かしていけると考えられる。

(2) 児童の実態

本校の児童は、明るく素直な子どもが多く、言われたことにまじめに取り組んでいる。普段の生活でも、ルールを守って過ごしており、友だちに優しく接したり、相手の気持ちを大切にしたりする雰囲気を感じられる。授業にも落ち着いた学習態度で臨んでおり、どの学習も意欲的に丁寧に取り組んでいる。

本校では令和2年度から、「まなび部(知)」「こころ部(徳)」「からだ部(体)」の3部会に分かれて研究を進めてきた。本校の子どもの実態として、思考力・判断力・表現力において課題があるため、その三つの力を伸ばすことを念頭に置き、『自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成』をテーマにおき研究に取り組んできた。

【知 かしこい子】

- ・知識・技能を生かして応用問題を解いたり、説明したりすることが苦手。
- ・自分の考えを書きたいが、表現力不足で書けない子がいる。
- ・問題に的確に答えることができない。

【徳 やさしい子】

- ・アンケート「友だちとのかかわりが楽しい」 A76%(令和2)→ A87%(令和3)
- ・自分から考えて行動できない。
- ・授業や行事で学んだことがいかせない。
- ・人の意見に流されることがまだある。
- ・「〇〇したら～なる」というような見通しをもって行動する力が弱い。

【体 たくましい子】

- ・アンケート「いろいろな運動のめあてをもって進んで取り組むことができたか」
A68%(令和2)→ A74%(令和3)
- ・友だちに的確なアドバイスができない子がいる。(令和2・3年度の成果と課題より)

各部会の成果と課題を振り返ってみると、「まなび部(知)」「こころ部(徳)」「からだ部(体)」の3部会いずれも思考力・判断力・表現力の資質・能力に関する課題があると捉えた。そこで、3部会共通主題を設定し、子どもの実態や今年の課題を踏まえながら、3教科(算数科・道徳科・体育科)を通じて、ともに生き生きと学び合う子どもの育成の研究を進めている。

(3) 部会研究仮説

【まなび部】

数学的活動において子どもの声から課題を生み出し、自分の考えをノートに書かせ、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

【こころ部】

道徳科において子どもが考えたいような課題を設定し、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを深め、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

【からだ部】

子どもたちに自分の課題を明確にとらえさせ、課題に沿った場の工夫をし、お互いに伝え合う活動をさせることで、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

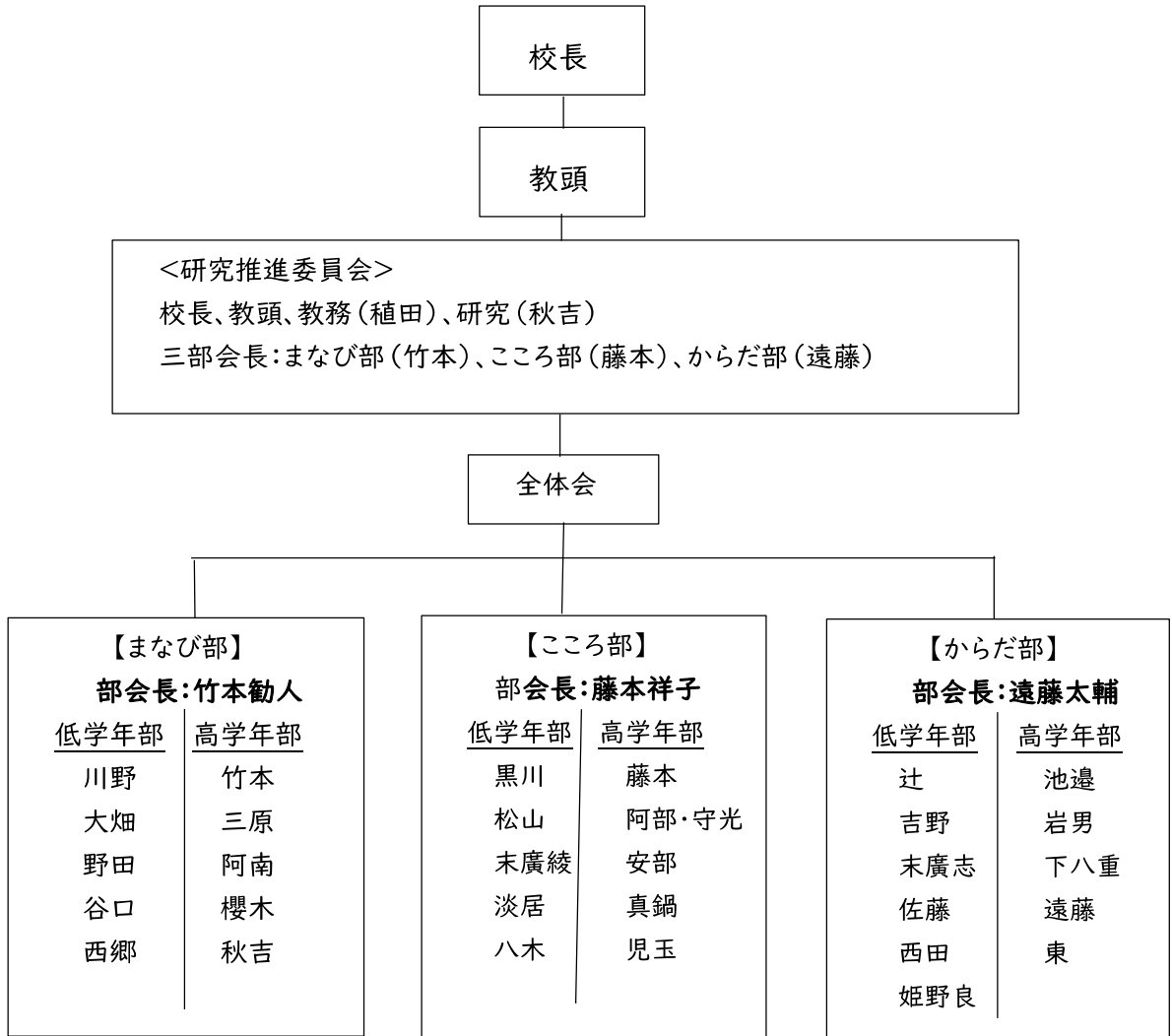
また今年度、まなび部の「子どもの声から課題を生み出す」、こころ部の「子どもが考えたいような課題を設定する」、からだ部の「自分の課題を明確にとらえさせる」ための『課題の設定』と、まなび部、こころ部の「伝え合い活動を工夫して取り入れる」、からだ部の「お互いに伝え合う活動をさせる」ための『伝え合い活動』に重点を置き、具体的な実践に取り組んでいきたい。そこで、今年度の重点的取組テーマとして、「課題の設定」と「伝え合い活動」とした。

3. 研究内容【重点】

知(まなび)・徳(こころ)・体(からだ)の3部会に分かれ、算数・道徳・体育の研究を行い、それぞれの分野を共通の主題、(仮説)で研究し、提案授業を通して子どもたちの学び合いの姿を交流していく。

- ① 租税教育の視点に基づいた各学年の年間指導計画を立て、授業実践をする。
(特別支援教育や専科については別途計画)
- ② 主題に迫る授業づくりをする。

4.研究組織



5.研究方法

- 部会(低学年部 1~3 学年/高学年部 4~6 学年)ごとに部会運営を図る。
 …(実態把握・指導案作成・授業準備・分析作業・まとめ)
- 検証授業は各部会研2本(各部、低学年部 1 本 高学年部 1 本 合計 6 本)
 *部会研の検証授業は、同部会の低学年、高学年の2部会が参加する。
 事前・事後研は、同部会の低学年、高学年の2部会合同で行い、出た意見や改善策などを、全体会で全職員で交流する場を設ける。
- 所属した部会の研究テーマに沿った互見授業を全教職員が行う。

租税教育全体計画

【学校の教育目標】

夢に向かい学び合い、認め合い、鍛え合う 主体的に生きる子どもの育成

- 基礎・基本的な力を確実に身につける子〈知識・技能〉
- 自分で考え、判断したり表現したりする子〈思考力・判断力・表現力〉
- 自分から進んで学び、粘り強く挑戦する子〈学びに向かう力〉

租税教育の目標

- ・地域に関心を持ち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる。
- ・集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる。
- ・税についての正しい知識・理解を深める。
- ※社会の一員としての意識・郷土愛

児童の実態

- 基礎・基本的な力が身につけている子どもは多いが、個人差がある。
- 思考力・判断力・表現力に課題が見られる。
- 経験や意欲、向上心に個人差が大きい。

【租税教育研究主題】

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

ペア・グループ学習を通じた授業づくり

租税教育における各学年の指導の重点目標

	郷土愛	集団と社会的自立	税の学習
目標	地域に関心をもち、地域をよりよくしていこうとする態度を育てる。	集団や社会のことを考え、みんなのためになることをしようとする態度を育てる。	税についての正しい知識・理解を深める。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域(郷土)の自然や行事を知り、楽しむことができる。 ・地域(郷土)の人々と関わることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなこと、得意なこと、できることをふやし、様々な活動へ興味・関心を高めながら意欲と自信をもって活動できるようにする。 ・約束やきまりを守り、友だちやみんなで使う物を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを知る。 ・身の回りに公共物があることを知る。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域(郷土)の文化や伝統を知り、大切にしようとする。 ・地域(郷土)の人々の願いや思いを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよさを認め、協力して活動する中で自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする。 ・約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。 ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを理解する。 ・公共の仕事や施設の大切さに気づく。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域(郷土)の文化を守ってきた人々の努力を知り、愛する心をもつ。 ・地域の一員として自分たちができていることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする。 ・公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にす、進んで義務を果たす。 ・働くことの喜びを感じ、公共のために役に立つことをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを理解する。 ・税の仕組みを知り、その役割について考える。

指導の場(各教科・領域)

各教科(主に算数・道徳・体育) 総合的な学習の時間

特別活動(※特別活動は、すべての指導の場を支える基盤として位置付ける。)

第1学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛(地域・社会)	集団と社会的自立	税の学習
4月		㊦どきどきわくわく1ねんせい(8) ㊦みんなでのしく(1)	㊦みんなでもろう(1)
5月		㊦ともだちと がっこうたんけんをしよう(3)	㊦わたしにできること(1)
6月	㊦こういで くさばなやむしをさがそう(2)		㊦みんなであそぶ(2)
7月	㊦みんなのこうえんであそぼう(3) ㊦なつやすみをたのしくすごそう ㊦まちたんけん(1)	㊦あおしんごう(1)	
8月	㊦むしとなかよくなろう(3)		
9月		㊦おとしよといっしょに(1)	㊦かずをせいりして(2)
10月	㊦こういであきをさがそう(3) ㊦こうえんであきをさがそう(3)	㊦ボールゲーム(6) ㊦ちゃんとのたつじん①(1) ㊦ちゃんとのたつじん②(1)	
11月	㊦はっぱやみであそぼう(3) ㊦もみじがり(1)	㊦いっしょにあそぼう(4) ㊦すてきなことば 「あふたあゆう」(1) ㊦はしのうえのおおかみ(1)	
12月		㊦ルールがないとどうなるの?(1)	㊦じぶんのいちにちをみつめよう(3)
1月	㊦こういでふゆをさがそう(2) ㊦ふゆのこうえんにいこう(3) ㊦むかしからつたわるあそびを たのしもう(4)	㊦そとであそぼう(3) ㊦きいろいベンチ(1)	
2月	㊦ぎんのしずく(1)	㊦いちねんかんをふりかえろう(3) ㊦ボールけりゲーム(5)	
3月	㊦ありがとうわたしたちのきょうしつ(6)	㊦もうすぐ二ねんせい(1)	

㊦:算数 ㊦:道徳 ㊦:体育 ㊦:生活科 ㊦:総合的な学習の時間 ㊦:社会 ㊦:家庭科 ():時数

第2学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛(地域・社会)	集団と社会的自立	税の学習
4月	㊤ ぐんぐんそだて わたしのやさい(10)	㊤ できるよ ポンタくん(1) ㊤ 春だ今日から2年生(6)	
5月	㊤ どきどきわくわく まちたんけん(10)	㊤ およげないりすさん(1) ㊤ くらぶたのしっばい(1)	
6月	㊤ わたしたちもしごとをしたい(1)	㊤ 表とグラフ(3)	㊤ 表とグラフ(3)
7月		㊤ やさい村の子どもたち(1)	㊤ 三べんかんがえて(1)
8月			
9月	㊤ ぼくのまちもひかっている(1)	㊤ ぐみの木と小鳥(1)	
10月		㊤ くつかくし(1) ㊤ レッドカード(1)	㊤ みんなでつかうまちのしせつ(6)
11月	㊤ もっとなかよし まちたんけん(12)	㊤ ジョゼくんとおりがみ(1) ㊤ ボールけりゲーム(9)	
12月	㊤ かいらんばん(1) ㊤ つながる広がる わたしの生かつ(12)		
1月		㊤ きれいになったずこうしつ(1) ㊤ あしたへジャンプ(27)	
2月		㊤ 一まいのしゃしん(1) ㊤ ボール投げゲーム(9)	
3月	㊤ おとす人、ひろう人(1)	㊤ おにあそび(6)	

㊤:算数 ㊤:道徳 ㊤:体育 ㊤:生活科 ㊤:総合的な学習の時間 ㊤:社会 ㊤:家庭科():時数

第3学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛(地域・社会)	集団と社会的自立	税の学習
4月	㊦わたしたちの住んでいる市のようす(16)	㊦友だち屋(1) ㊦多様な動きをつくる運動(5)	
5月			㊦市役所やみんながりようするしせつがあるところ(1)
6月	㊦牛乳工場を調べる(1)	㊦工場ではたらく人びと(7) ㊦心の優先席(1) ㊦はたらく(1) ㊦わたしのしたこと(1)	㊦わり算(11)
7月	㊦牛乳はどこへ(1)		㊦表とぼうグラフ(9) ㊦あまりのあるわり算(8)
8月	㊦郷土かるた(1)	㊦店ではたらく人びとの仕事(7)	㊦10000より大きい数(8)
9月	㊦キツネおどり(1) ㊦知っている店をしょうかいしよう(1)		㊦店内やはたらく人びとの様子、工夫を見たりインタビューしたりして調べよう(2)
10月	㊦品物の産地を調べよう(1)	㊦こまるのはだれ? これでもいいのかな?(1) ㊦みんなで作ろう! がっきゅうルールブック(1) ㊦プレルボール(6)	㊦安全なくらしを守る人びとの仕事(11)
11月	㊦地域の消防設備と消防団(1)	㊦いちょうの木をまもるために(1) ㊦ハンドボール(8) ㊦学校を火事から守るために(1) ㊦身近な交通事故(1) ㊦交通事故が起きたら(1)	㊦分数(10)
12月	㊦交地いきの人々とともに(1)	㊦太郎のいどう教室(1)	
1月	㊦おばあちゃんのおせち(1) ㊦市のようすと うつりかわるくらし(9)		㊦歴史資料館の見学(2)
2月		㊦やくそくだもん(1) ㊦お日さまの心で(1) ㊦ラインサッカー(9)	㊦2けたのかけ算(10) ㊦口を使った式(5) ㊦高速道路ができたころ(1)
3月		㊦海をわたるランドセル(1) ㊦キックベースボール(6) ㊦大分みらいプラン(1)	㊦そろばん(6) ㊦市の取り組み(1)

㊦地域のよきについて、校区の特徴や福祉等の視点から考え、自分たちの生活を見直したり、自分の生き方を考えたりして、できることを実行しよう

㊦:算数 ㊦:道徳 ㊦:体育 ㊦:生活科 ㊦:総合的な学習の時間 ㊦:社会 ㊦:家庭科 ():時数

第4学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛(地域・社会)	集団と社会的自立	税の学習
4月	④わたしたちの県(8)	④みんなのためにできること(1)	
5月		④さか上がり(1)	④折れ線グラフ(9) ④ごみのしよりと活用(13)
6月	④ねがいをつみ上げた石橋(1)	④ゴール型(ポートボール)(6) ④どっちがいいか(1)	④くらしをささえる水(11)
7月		④自分たちにできるエコ活動(1)	
8月			
9月		④早起きは三文の徳(1)	④自然災害から人々を守る活動(14) ④石油列車、東北へ向かって走れ!(1)
10月	④かつおぶし(1) ④くらしの中に伝わる願い(12)	④学級新聞作り(1) ④心にプレーキ(1)	④整理の仕方(6)
11月	④地いきの発てんにつくした人々(13)	④雨のバスでいりゆう所で(1) ④みかん出し(1)	④変わり方(5)
12月		④ネット型(キャッチバレー)(4) ④ノーベル賞の生みの親 ーアルフレッド・ノーベラー(1) ④十六番目の代表選手(1) ④「祭り日」(1)	
1月	④わたしたちの住んでいる県(18)	④えがおの花大作戦(1)	
2月		④ゴール型(グリッドサッカー)(9) ④図書館で(1)	
3月		④ベースボール型(ティーボール)(6) ④レスキュー隊(1)	

④地域社会の問題について、環境や福祉、キャリア教育等の視点から考え、自分たちの生活を見直したり、自分の生き方を考えたりして、できることを実行しよう。

④:算数 ④:道徳 ④:体育 ④:生活科 ④:総合的な学習の時間 ④:社会 ④:家庭科 ():時数

第5学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛(地域・社会)	集団と社会的自立	税の学習
4月		㊦家族の生活再発見(1) ㊦ひみつのトレーニング(1)	
5月	㊦米作りについて調べ下郡 米をつくろう(20) ㊦シンボルマークに こめられたものは(1)		
6月	㊦いっしょに何をしよう かな(1) ㊦日本の心とかたち —真・行・草—(1)		
7月		㊦できるよ、家庭の仕事(2) ㊦救急車(1)	
8月			
9月		㊦表現・リズムダンス(8)	㊦これからの食料生産(8)
10月	㊦世界の文化遺産(1)	㊦バスケットボール(7) ㊦セルフジャッジ(1)	㊦日本の貿易と これからの工業生産(8)
11月		㊦ソフトボール(7) ㊦うばわれた自由(1)	㊦割合(13)
12月		㊦働く幸せ —チョーク工場の本田さん—(1)	㊦割合とグラフ(7)
1月		㊦心の管理人(1)	㊦生活を支えるお金と物(6)
2月	㊦ふるさとのほこり広島 カープ(1)	㊦サッカー(7) ㊦明日へ向かって(1)	
3月	㊦自然災害から人々を 守る(6)	㊦ちひろの思い(1) ㊦マララ・ユスフザイー—人の少女が世 界を変える(1)	

㊦ 地域(農業)や学校の伝統について、人々の工夫や苦労に着目して、自分たちのくらしを見直したり、自分の生き方を考えたりして、できることを実行しよう。

㊦:算数 ㊦:道徳 ㊦:体育 ㊦:生活科 ㊦:総合的な学習の時間 ㊦:社会 ㊦:家庭科 ():時数

第6学年 租税教育 年間指導計画

	郷土愛(地域・社会)	集団と社会的自立	税の学習
4月		⑩松井さんのえがお(1)	㊦憲法と政治のしくみ(9)
5月		⑩夢に向かって～三浦雄一郎～(1)	㊦わたしたちの願いと政治のはたらき(5)
6月		⑩世界がおどろく七分間清掃(1) ⑩本当にだいじょうぶ?(1)	㊦租税教室(2) ㊦天皇を中心とした政治(8)
7月		⑩マナーからルールへ、そしてマナーへ(1)	
8月		⑩いらなくなったきまり(1)	
9月			㊦戦国の世の統一(5)
10月	⑩地球があぶない(1) ⑩いちばん近い自然「里山」(1)		㊦武士による政治の安定(5) ㊦データの見方(11)
11月	⑩これが日本(1)		㊦明治の新しい国づくり(6)
12月		⑩すあしにサンダルの天使—マザー・テレサー(1)	㊦国力の充実をめざす日本と国際社会(9)
1月		㊦ゴール型(バスケットボール)(8)	
2月		⑩負けないで(1) ⑩生命のメッセージ(1) ㊦共に生きる地域での生活(10)	
3月		㊦ゴール型(サッカー)(10)	

⑩ 社会の問題について、SDGsの視点(平和や福祉等)から考え、自分たちの生活を見直したり、自分の生き方を考えたりして、できることを実行しよう。

㊦:算数 ⑩:道徳 ㊦:体育 ㊦:生活科 ⑩:総合的な学習の時間 ㊦:社会 ㊦:家庭科 ():時数

令和3年度・研修の経過

月	日	曜日	内容	
4	14	水	研究推進委員会	
	21	水	校内研①(今年度の研修、いじめ防止、対応)	
	28	木	校内研②(全体研、三部会研、体育研)	
5	12	水	校内研③(児童理解、個別の指導計画、外国語ミニ研)	
	13	木	ICT研修	
	19	水	校内研④(子ども理解、いじめ・不登校研、三部会研)	
6	2	水	校内研⑤(全体研、人権・同和教育研、QU、三部会研)	
	9	水	校内研⑥(三部会研)	
	16	水	互見授業(まなび部)伊澤教諭 校内研⑦(服務規律研、全体研、三部会研)	
	23	水	校内研⑧(研究推進部会、全体研)	
	30	水	互見授業(まなび部)野田教諭	
7	7	水	互見授業(まなび部)櫻木教諭 互見授業(こころ部)松山教諭	
	14	水	互見授業(こころ部)守光教諭	
	19	月	ICT研修	
	21	水	校内研⑨(危機管理研、教育相談研、租税教育研)	
	26	月	ALT 研修(7/26、7/29、8/3)	
8	6	金	校内研⑩(全体研、いじめ・不登校研)	
9	15	水	校内研⑪(人権・同和教育研、全体研)	
	22	水	校内研⑫(全体研、人権・同和教育研)	
	29	水	互見授業(まなび部)末廣志教諭 校内研⑬(全体研、人権・同和教育研、三部会研)	
	30	木	互見授業(こころ部)阿部教諭	
10	4	月	互見授業(こころ部)御手洗教諭	
	6	水	検証授業(こころ部)赤木教諭	
	13	水	校内研⑭(全体研、三部会研)	
11	5	金	互見授業(からだ部)池邊教諭	
	8	月	互見授業(こころ部)安部教諭	
	10	10	水	検証授業(まなび部)竹本教諭 検証授業(こころ部)藤本教諭 検証授業(からだ部)岩男教諭 校内研⑮(各事後研)
		15	月	互見授業(こころ部)大畑教諭
		16	火	検証授業(からだ部)遠藤教諭
		17	水	互見授業(からだ部)市川教諭

			校内研⑯(全体研、人権・同和教育研、三部会研)
	24	水	検証授業(からだ部)末廣綾教諭
			校内研⑰(全体研、人権・同和教育研、三部会研)
	25	木	互見授業(まなび部)西郷教諭
			互見授業(からだ部)井上教諭
	26	金	互見授業(まなび部)秋吉教諭
			互見授業(からだ部)佐藤教諭
12	1	水	互見授業(こころ部)加藤教諭
	8	水	互見授業(からだ部)姫野貴教諭
	9	木	4年生租税教室1回目
	14	火	2年生租税教室1回目
	15	水	互見授業(からだ部)朝見・姫野良教諭
	17	金	5年生租税教室1回目
1	12	水	校内研⑱(全体研、教育課程、三部会研)
	18	火	互見授業(まなび部)三原教諭
	19	水	校内研⑲(全体研、体力向上、人権・同和教育研、三部会研)
	20	木	6年生租税教室2回目
	25	火	4年生租税教室2回目(中止)
	26	水	互見授業(からだ部)東教諭
			校内研⑳(全体研、三部会研)
	27	木	5年生租税教室2回目(中止)
	31	月	互見授業(こころ部)大畑教諭
2	2	水	校内研㉑(外国語・外国語活動研)
	7	月	互見授業(からだ部)安部教諭
	9	水	校内研㉒(全体研、三部会研)
	16	水	互見授業(こころ部)淡居・児玉令教諭
			校内研㉓(全体研まとめ)

令和4年度・研修の経過

月	日	曜日	内容
4	13	水	研究推進委員会
	20	水	校内研①(今年度の研修)
	28	木	校内研②(いじめ防止、対応)
5	11	水	校内研③(租税教育、児童理解、個別の指導計画)
	18	水	互見授業(こころ部)藤本教諭 校内研④(全体研、三部会研)
	23	月	互見授業(まなび部)竹本教諭
	25	水	互見授業(こころ部)松山教諭 校内研⑤(人権・同和教育研【子ども】、全体研、三部会研)
	27	金	互見授業(からだ部)遠藤教諭
6	1	水	校内研⑥(人権・同和教育研【医療】、QU、ICT、全体研、三部会研)
	7	火	6年生租税教室1回目 互見授業(こころ部)守光・阿部教諭
	8	水	5年生租税教室1回目 校内研⑦(全体研、三部会研)
	13	月	互見授業(まなび部)阿南教諭
	14	火	2年生租税教室1回目
	15	水	小教研
	16	木	互見授業(こころ部)八木教諭
	21	火	互見授業(こころ部)真鍋教諭 互見授業(からだ部)下八重教諭
	22	水	4年生租税教室1回目 校内研⑧(全体研、三部会研)
	30	木	検証授業(まなび部)野田教諭 校内研⑨(まなび部)事後研
7	1	金	5年生租税教室2回目 互見授業(からだ部)辻教諭
	8	金	互見授業(まなび部)谷口教諭
	11	月	検証授業(からだ部)池邊教諭 検証授業(こころ部)末廣(綾)教諭
	13	水	互見授業(こころ部)淡居教諭
	15	金	校内研⑨(からだ部)事後研 校内研⑨(こころ部)事後研
	20	水	校内研⑩(全体研、学力向上)
	21	木	校内研⑪(人権・同和教育研【性の多様性】、全体研、三部会研)
22	金	校内研⑫(危機管理、人権・同和教育研【外国人】、ICT研)	

8	25	月	ALT 研修(7/25、7/28、8/23)
	5	金	校内研⑬(三部会研)
	24	水	小教研
9	29	月	研究推進委員会
	31	水	校内研⑭(全体研、三部会研)
	7	水	校内研⑮(全体研、三部会研)
	14	水	互見授業(こころ部)児玉教諭 校内研⑯(全体研、三部会研)
	16	金	互見授業(まなび部)川野教諭 互見授業(からだ部)岩男教諭
	21	水	互見授業(からだ部)末廣志教諭 校内研⑰(三部会研)
10	28	水	校内研⑱(全体研、三部会研)
	5	水	校内研⑲(全体研、三部会研)
	12	水	校内研⑳(全体研、担当者会)
	14	金	互見授業(こころ部)黒川教諭
	19	水	校内研㉑(全体研、担当者会)
	26	水	小教研
11	27	木	リハーサル
	2	水	校内研㉒(公開研準備)
	8	火	前日準備
	9	水	租税教育公開研究発表会

II 実践の記録



第2学年 算数科学習指導案

日時 令和4年6月30日(木)2校時
授業者 2年4組 野田 道子

○研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成
～課題の設定と伝え合い活動を通して～

○部会研究仮説

数学的活動において、子どもたちの声から課題を生み出し、自分の考えをノートに書かせ、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

○めざす子ども像

よく考えて学びを深める子ども

1. 単元名 表とグラフ

2. 租税教育との関わり

約束やきまりを守り、友だちやみんなが使う物を大切にすること。(集団と社会的自立)

税の大切さを知る。(税の学習)

①表やグラフ、数値を通して数についての感覚を豊かにする。

②表やグラフ、数値を用いて表現する力を高める。

③目的に応じて資料を収集し、それらを分類・整理し、表やグラフ、数値で表すことができるようにする。

3. 単元目標

簡単なグラフや表について理解し、その特徴を捉え考察する力を養うとともに、グラフや表を用いて数学的に表現・処理したことを、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一次元表や○を用いたグラフについて理解し、表したりよみ取ったりすることができる。	データを分類整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて表し、数の大きさなどの特徴について考えている。	データをわかりやすく整理し表やグラフに表すことについて、目的意識をもって主体的に取り組んでいる。

5. 指導の立場

(1) 教材について

本単元は、小学校学習指導要領第2学年の内容D「データの活用」(1)に位置付けられている。

1学年では、身のまわりにあるものの個数に着目し、簡単な絵や図を用いて表したりよみ取ったりして特徴を捉えることを指導している。

2学年では、調べた事柄や身のまわりの数量を目的に応じて分類整理し、わかりやすく表す方法を考え、簡単な表や○を用いたグラフに表したり、それらをよみ取ったりすることを指導する。また表やグラフに表すことで、個数が多いものはどれか、個数の違いはどれだけかといったことが視覚的にわかりやすくなるよさを捉えられるようにしたい。更に、身のまわりにある数量を分類整理する基礎的な経験をさせていくことで、今後の生活や学習に活用していこうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、与えられた課題に対して一生懸命取り組むことができる。しかし、「恥ずかしい」「自信がない」「どう言ったらよいかわからない」といった理由で、挙手しての発言は、数名の児童に限られることが多い。そこで、一人一人の児童の、声を出す機会を増やすために、順番に指名をして発言させたり、全員を立たせて繰り返し言わせたりといったことを続けている。また、「たし算」や「ひき算」の学習では、計算の仕方の説明を何度もまねて練習させたり、リレー説明をさせたりすることで、算数用語を適切に使い説明することに慣れてきた。

本単元のレディネステストの実施結果は、次の通りである。

- ・ものの数を正しく数える 正答数 27/27人(チェックしながら数えている児童は 5/27人)
- ・一番多いものを選ぶ 正答数 25/27人(2人は題意がつかめていない)
- ・絵グラフに数の分だけ色をぬる 正答数 21/27人(下からではなく上から色をぬっている)

この結果から、簡単な事柄について数えたり、指示された数を答えたりすることはほとんどの児童ができていると言える。しかし、落ちや重なりがないように、整理したものには印をつけて、グラフに表す技能が定着している児童は少ない。数えるものが多くなると誤答が増えると考えられる。ものの個数をよみ取る際には、印をつけながら行うことを復習したうえで、指導していきたい。また、グラフに○を記入する際には、下からかいていくことを確認しながら作業を進めていく必要がある。

(3) 指導について

表とグラフの指導では、知識・技能的な面だけを指導するのではなく、具体的な場面において整理したりまとめたりする必要性を感じさせ、表やグラフに表すよさに気づかせていくことが大切だと考える。

本時では、まず遊びたい遊びのアンケート結果を大きさも置き方もバラバラのカードであらわしたものを黒板に貼り出すところから始める。最初から分類整理された状態で情報を与えるのではなく、「種類や数がわかるように整理したい」という思いを大切にしたい。

①子どもたちの声から課題を生み出す

まずは、1年生の時に同じ種類のものを集めて並べたことを想起させながら、種類ごとだが、雑に並べられたアンケート結果を新たに提示する。わかりやすくなったこともあるが、「どの遊びが一番多いかわかりにくい」「名前が小さい」などの困りがまだあることから、課題「しゅるいや人数を わかりやすくあらわすには、どうすればいいのかな」を設定する。

②考えをノートに書く

困りの原因や1年生での学習から、「カードの並べ方や大きさをそろえる」「遊びの名前や人数を書く」「マスに色をぬる」「○をかく」などの方法が使えると見通しをもたせる。出された方法の中から、自分がやってみたい方法を選ばせ、途中までかいたヒントカードを渡し、かかせる。その際、付け加えたい工夫があればかいてもよいことを知らせる。図を書いた後に、表し方の説明やどんな工夫をしたのかについても言葉で書かせておきたい。配慮の必要な児童には、時間がかからず簡単にかけるヒントカードをすすめたり、言葉での表し方について、個別の支援を行ったりする。

③伝え合い活動

まずは、ペアで自分の考えを伝える場を設定する。その際、ノートを見せながら自分の表し方や工夫について、言葉で言わせるようにする。聞く側は、自分の考えと同じか違うか、似ているところはないかなど意識させ聞くようにさせたい。全体交流の場では、時間短縮のため、教師があらかじめ用意したものを提示し、自分の考えと同じものについて児童に説明させる。また、付け加えの工夫についても発表させる。ペア交流・全体交流共に、友だちの考えに対する反応を意識させたい。

全体交流で児童に考えを出させた後、「人数分の◆◆を書く」という考えから「グラフ」へ、「名前と人数を書く」という考えから「表」へとつないでいく。

6. 指導計画(全4時間)

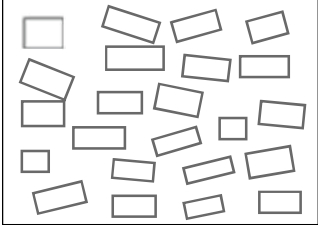

時間	めあて	学習活動	評価規準
1時 (本時)	あそびアンケートのけっかのあらわし方を考えよう。 租一②	・あそびアンケートの結果をわかりやすく表す方法について話し合い、表や簡単なグラフに書き表す。	・身の回りにある数量を、整理する観点を決めて分類整理し、グラフや表に表すことができる。(知・技)
2時	「グラフ」や「表」のよさを見つけよう。 租一①	・「グラフ」や「表」に表すことで、わかりやすくなる事柄について話し合うことで、それぞれのよさを見つける。	・データを整理する観点到に着目し、身の回りの事象についてグラフや表を用いて考察している。(思・判・表)
3時	表やグラフからよみとれることをせつめいしよう。 租一③	・学級を紹介するためのグラフや表からよみ取ったことをもとに、学級の特徴について話し合う。	・身の回りの事象に関心をもち、グラフや表を用いて数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。(主)
4時	学んだことをたしかめよう。 租一③	・「たしかめよう」に取り組む。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。(知・技) ・「表とグラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。(思・判・表)

7. 本時案

(1) 題目 調べた結果をわかりやすくあらわそう (1/4)

(2) 主眼 「グラフ」や「表」を使った表し方を、あそび調べの結果の表し方について、わかりやすく表すための方法を見つける活動を通して、理解できるようにする。

(3) 展開

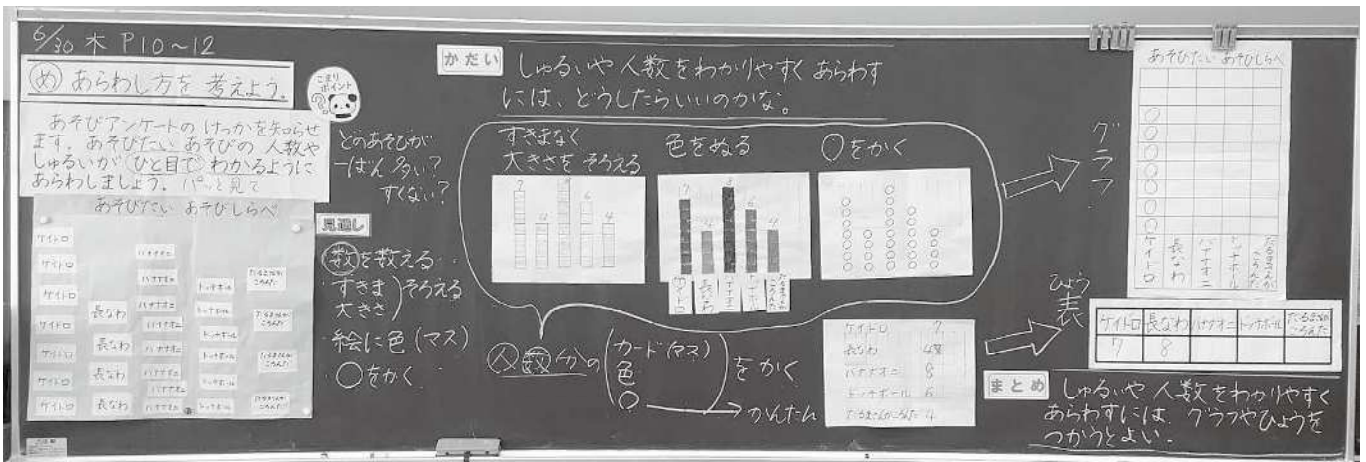
過程	学習活動	支援及び留意点	評価規準
導入	<p>1. 問題場面をとらえ、課題を設定する。(5分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて あらわし方を考えよう。</p> </div> <p>○問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>問:あそびアンケートのけっかを みんなに知らせます。 あそびたい あそびの しゅるいや 人数が、ひとめでわかるように あらわしましょう。</p> </div> <p>○バラバラに並べただけの 遊びのアンケート結果を提示する。 1年生での学習から同じ種類のものを集めて並べるとよいことを想起させ、カードを並べたものを新しく提示する。</p> <p>○どんなことがわかりやすくなったかを出し合わせると共に、困りを出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな種類があるかわかる ・全部で5種類ある ・〇が多そう <p>? ・どのあそびが一番多いかわかりにくい</p> <p>? ・人数がわかりにくい</p> <p>? ・名前が小さい</p> <p>○困りから子どもと共に、課題を設定する。</p>	 <p>・どのあそびが一番多いかわかりにくい</p> 
展開	<p>2. 課題をとらえ、自分の考えをもつ。(15分)</p> <p>3. ペアや全体で考えを出し合い比べながら、まとめる。(20分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題 しゅるいや人数を わかりやすくあらわすには どうすればいいのかな。</p> </div> <p>○困りの原因や1年生での学習から解決の見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードがバラバラ→(並べ方)(大きさ)をそろえる ・絵に色をぬる→マス ・〇をかく ・人数やあそびの名前がわかるようにする <p>○わかりやすく表す方法について、自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しの中から自分がやりたい方法を選ばせ、途中まで書いているヒントカードを渡す。 ・自分の工夫を加えてもよいことを伝える。 ・どんな表し方をしたか、工夫をしたか、言葉でも書かせ、説明できるようにする。 <p>*配慮の必要な子どもには、時間がかからない書きやすいヒントカードをすすめる。</p> <p>○ペアで説明させ、言い方の練習をさせる。</p> <p>○全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの表し方について説明させる。工夫があれば付け加えの発表をさせる。 ・子どもが選ばなかった方法についても提示し、説明させる。 ・表し方の似ているところをまとめていき、簡単に書ける「〇で表すグラフ」と「表」へとつないでいく。 	<p>○自分の選んだ方法であそびアンケートの結果を表し、その説明を書いている。(ワークシート)</p> <p>○自分が選んだ方法の表し方や工夫を説明している。(発言)</p>

まなび部 低学年部 検証授業のまとめ 成果と課題

授業者 野田 道子 教諭(2年4組)

1. 単元名 表とグラフ
2. 題目 遊びアンケートのけっかのあらわし方を考えよう(1/4)
3. 主眼 「グラフ」や「表」を使った表し方を、遊び調べの結果の表し方について、わかりやすくするための方法のを見つける活動を通して、理解できるようにする。

4. 本時の板書



5. 検証授業のまとめ

(1) 課題の設定く 子どもの声から課題を生み出す >

成果	課題
<p>(題材)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもが引き受けやすい題材となっていた。 ○みんな遊びの中から遊びの種類があったので、子どもたちの意欲につながっていた。 ○興味を引く題材であった。 <p>(課題への流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ひと目」というキーワードで子どもたちの声から困りが生まれ、課題への流れがスムーズだった。 	

(2) 伝え合い活動く 自分の考えをもつ・伝え合い活動の工夫 >

成果	課題
<p>(見通し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体で見通しをもつことで自分の考えを持つきっかけとなった。 ○自分の見通しが選べたので、次に何をすることが分かっていった。 ○一人ひとりがどのやり方でするか選べていたので自己決定の場となっていた。 <p>(ヒントカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しで出た意見の数のヒントカード(グラフや表につながるカード)があったことで、どの子も主体的に自分 	<p>(ペアトーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カード交換のみのペアもあったので、2年生には交流するための話型が必要な場合がある。 ●2人で5分交流であったので、もう少し時間を区切るとよかった。 <p>⇒2分で交代など</p> <p>(全体交流の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分で使ったグラフに一人ひとり少しずつ差があったことで、同じ種類のグラフであるが違うグラフと区別して

<p>の考えをもつことができ、選ぶことができた。</p> <p>(ペアトーク)</p> <p>○自分の考えと友だちの考えを比べる方法としてニコニコマーク(2種類)で比べることにより共通点や違いについて意識して比べることができていた。</p> <p>○ニコニコマークを相手からもらうことで相手意識が必然と生まれていた。</p>	<p>しまう子どもがいたので、同じ結果を表している点に目を向けさせる必要があった。</p> <p>例:グラフの数を上に書く子と下に書く子</p>
--	--

(3) その他

成 果	課 題
<p>(子どもたちの姿)</p> <p>○自分の考えを口に出してつぶやく子が多く、意欲的に活動していた。</p> <p>○つぶやきが多いのは、普段の授業で行えているのが伝わってきた。</p> <p>○発表している子に体を向ける学びあう姿があった。</p> <p>○発言をしやすいクラスの雰囲気があった。</p> <p>(先生の姿)</p> <p>○子ども一人ひとりの意見を大切にしている(引き出そうとする)姿が伝わってきた。</p> <p>○細かい机間指導が子どもの考えをもつきっかけとなった。</p> <p>○板書の工夫で、グラフや表へのつながりが分かりやすかった。</p>	<p>(時間の確保)</p> <p>●3つのグラフは、どれも見やすいものであったので、どれが「は か せ」か子どもたちの意見をしぼる活動は、必要なかった。</p> <p>⇒グラフ、表の言葉を押さえる活動でよかった。</p>

第2学年 道徳科学習指導案

日時 令和4年7月11日(月)2校時

授業者 2年1組 末廣 綾乃

○研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

○部会研究仮説

道徳科において、子どもが考えたくなるような課題を設定し、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを深め、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

○めざす子ども像

自分の行動を振り返り、周りの人や物を思いやる子ども

1. 主題名 すききらいにとらわれないで【C 公正、公平、社会正義】

2. 教材名 「やさしい村の子どもたち」(出典:小学 どうとく ゆたかな心 光文書院)

3. 租税教育との関わり

約束やきまりを守り、友だちやみんなが使う物を大切に作る。(集団と社会的自立)

4. ねらい

自他の違いにとらわれないで仲よくすることのよさを、なすの心情に着目して考えることにより、だれとでも分け隔てなく接しようとする道徳的実践意欲を育てる。

5. 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について

一人一人が尊重され、だれもが自分らしく生きていくには、互いに認め合い、差別や偏見をもつことなく、公正・公平な態度で接することが大事である。しかし、人と自分と異なる考えや感じ方、多数派ではない立場や意見をもつ人に対し、偏った見方や接し方をしてしまう弱さをもっている。また、外見や所属、持ち物や趣味など、目につきやすい違いにこだわり、分け隔てをしまいがちである。よって、一人一人が尊重される社会や集団の形成のためには、公正・公平な態度の育成という社会正義の実現が不可欠である。本教材を通して、自他の違いや自分の好き嫌いにとらわれないで、だれとでも分け隔てなく接しようとする実践意欲を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(2)児童の実態について

本学級の児童は、明るく、学習や係活動に対して前向きに取り組んでいる。また、困っている友だちに積極的に声をかけたり、物が落ちたら拾ったりするなどの思いやりのある行動する児童もいる。しかし、「男子だから」「女子だから」と、性別で区別し、自分と異なる意見を受け入れることができないことがある。また、休み時間には「一緒に遊んでもらえなかった」と教室に戻ってくる児童もいる。いつも遊んでいるグループに、新しい友だちを入れることに抵抗がある様子が見られる。今回、授業するにあたって、友だちについてのアンケートを実施した。結果は、以下ようになった。

【友だちアンケートの結果】(アンケート回答:29人)

①だれとでも仲よくできていますか。 いいえ:4人

(理由)男の子が怖い。いきなりルールを変える人がいるから。やめると言われるから。

②仲間外しをしたことがありますか。 はい:5人

(理由)腹が立ったときにしてしまった。喧嘩をしたとき。

友だちが「遊ぼう」と言ってきたけど、「だめ」と言ってしまった。

③友だちが嫌なことをされていたら助けられますか。 いいえ:3人

(理由)先生に伝えるならできるけど、助けるのは苦手。絡まれそうだから。いけないことだけど、無視してしまう。

「特別の教科 道徳」の学習においては、資料をもとに友だちと考えを交流し合いながら、道徳的価値について学び、「C 公正、公平、社会正義」については、1年生の2学期「ぶうたのやくめ」において、自分の好き嫌いにとらわれないで、人と接することの大切さを学習している。

日頃の授業では、ほとんどの児童が自分の考えをもつことができている、さらに、ペアでの交流(ワークシート交換)をすることで、考えをつけ加えたり、考えをもっていなかった児童が考えをもったりすることができている。

(3)教材について

本教材のやさい村の子どもたちは、同じやさいという仲間でありながら、その外見にとらわれて仲よくなれないでいる。しかし、きゅうりの発言により、やさい村の子どもたちは、自分たちの偏った考えに気づいていく。児童は、やさい村の子どもたちに自分を重ねていくことにより、追体験的に公正・公平に人と接することのよさを学ぶことができる。また、仲よく遊ぶやさい村の子どもたちの姿から、好き嫌いにとらわれることなく友だちや仲間と仲よくする心が大切だと知ることができる教材と考えた。

6. 指導について

①子どもが考えたいような課題の設定

はじめに、友だちと仲良く過ごせているかを聞いた後、本時のめあて「好き嫌いにとらわれないで仲良くすることについて考えよう。」を提示し、資料を読む。

次に、なすが「ちょっといやだなあ。」と言ったのは、外見の違いからであるということをおさえ、板書する。また、なすに「ちょっといやだなあ。」と言われた、にんじんとらっかせいの気持ちを役割演技で考えさせる。なすの気持ちの変化に着目させ、なすが謝ったのは「違いよりも大切なこと」というきゅうりの言葉に気づいたからということをおさえ、『なすは、どうしてあやまったのかな。』と問う。ワークシートに考えを書かせた後、ワークシート交換を行い、近くの人と考えを交流させる。その後、考えの違いを明確にしながら板書し、見た目で判断せず、だれとでも仲良くすることの大切さに気づかせていく。また、なすが謝ったときのにんじんとらっかせいの気持ちを考えさせ、ペープサートを用いて役割演技させる。

好き嫌いにとらわれないで仲良くすることで、みんなが楽しくなることをおさえ、普段の自分たちの生活を振り返らせる。その際に、事前に行ったアンケートの結果を伝える。生活の中で好き嫌いにとらわれて行動してしまうことがあることをおさえ、『だれとでも仲良くするにはどんなことが大切かな。』と問い、ワークシートに書かせる。ワークシート交換をさせた後、考えを交流させる。

②伝え合い活動の工夫

自分の考えをワークシートに書いた後、友だちとワークシート交換を行わせる。友だちの考えを読んで、自分の考えと似ていたら赤、違っていたら青で「にこにこマーク」を書かせる。ワークシート交換を行うことで、自分と友だちの考えを比べたり、自分の考えに生かしたりすることができるようにする。また、児童の考えをYチャートで整理し、考えの違いを見やすくしたり、キーワードを書いてまとめたりすることで、板書の構造化を図り、伝え合い活動に活かせるようにする。

なすから「ちょっといやだなあ。」と言われた時、なすから「ごめんね。」と言われた時のらっかせいとにんじんの気持ちを考えさせるために、役割演技させる。役割演技を通して、場面を把握させたり、気持ちの変化をとらえさせたりしたい。また、やさい村の子どもたちの心情をハートメーターで表すことで、気持ちの変化をとらえやすくする。

7. 本時案 面多面的に考えさせる発問 角多角的に考えさせる発問

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入	<p>1. 本時のめあてを確認する。(5分)</p>	<p>○友だちと仲良く過ごせているかを聞いた後、めあてを提示。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めすききらいにとらわれないでなかよくすることについてかんがえよう。</p> </div> <p>○「すききらいにとらわれないでなかよくする」とは、どういうことを問う。 【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いしないこと ・みんなとなかよくする 	
展開	<p>2. なすは、どんな気持ちで謝ったのかを考える。(25分)</p>	<p>○資料「やさしい村の子どもたち」を範読し、話の内容をつかませる。</p> <p>○話の中で、好き嫌いをしていた場面を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なすが「嫌だ」と言った場面 <p>○なすが「嫌だ」と言ったのは、土の中と外での外見的な違いからということをおさえる。(ハートメーター)</p> <p>○なすに「嫌だ」と言われた時のにんじんとらっかせいの気持ちを考えさせ、発表させる。(ハートメーター)→役割演技(ペープサート)</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嫌だな ・悲しい ・どうしてそんなこと言うの ・いじわるしないでよ <p>○きゅうりととまとの気持ちも考えさせる。(ハートメーター)</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とまとときゅうりは、かわいそうだと思っている。 ・なすに注意できないのかもしれない。 <p>○なすの気持ちが変わった場面をおさえ、気持ちが変わったのは、きゅうりの言葉の「違いよりももっと大事なこと」に気づいたからということをおさえる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>面なすは、どうしてあやまったのかな。</p> </div> <p>○ワークシートに考えを書かせ、ペアで読み合った後、全体発表させる。 【予想される児童の考え】</p> <p>〈仲良く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間はずししてしまったから。 ・みんなと仲良くした方がいいから。 ・みんなと一緒に遊んだ方が楽しいから。 <p>〈気持ち〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひどいことを言って、悲しい気持ちにさせたから。 ・嫌な気持ちにしてしまったから。 ・気持ちを考えてなかったから。 ・自分が言われたら嫌なことだから。 <p>〈みんな同じ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目が違って関係ないと気づいたから。 ・みんな同じ野菜だと気づいたから。 <p>○「違いよりも大事なこと」は、どんなことなのかを考えさせる。</p> <p>○なすが謝った時のにんじんとらっかせいの気持ちを考えさせる。(ハートメーター)→役割演技(ペープサート)</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謝ってくれてありがとう。 ・もう仲間はずししないでね。 	

	<p>3. 好き嫌いとらわれないでだれとも仲良くするために大切なことを考える。(10分)</p>	<p>○この後、土の中、土の外は関係なく仲良く遊ぶことができていることを確認し、みんなが楽しく過ごせていることをおさえる。 (ハートメーター)</p> <p>○普段の生活での友だちとの関わりについて振り返らせる。 ○やさい村の子どもたちのように、好き嫌いとらわれず、だれとも仲良くしていくために大切なことを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>角 だれともなかよくするにはどんなことが大せつかな。</p> </div> <p>○ワークシートに考えを書かせ、ペアで読み合った後、全体で発表させる。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間はずしをしない。 ・自分から友だちに声をかける。 ・相手の気持ちを考える。 ・みんなを大切にす。 <p>○好き嫌いとらわれないで、友だちと仲良くしていくことの大切さに気づかせる。</p>	
<p>終末</p>	<p>4. 本時の振り返りをする。(5分)</p>	<p>○これからどのように行動していきたいかをワークシートに書かせる。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えて、友だちと仲良くする。 ・「仲間に入れて」と言われたら、一緒に遊ぶ。 ・仲間はずれにしない。・見ためて決めつけない。 ・嫌な言葉を言わない。・好き嫌いで友だちを分けない。 ・一人の人がいたら、声をかける。 	<p>○分け隔てなくだれとも仲良く接しようという気持ちを持ち、これからの生活に活かそうとしているか。 (発言、ワークシート)</p>

(2) 伝え合い活動<伝え合い活動の工夫>

成 果	課 題
<p>(役割演技)</p> <p>○ペープサートを用いることで、役になりきって、「にんじん やらかせい」の気持ちを表現することができていた。教師が「なす」役になることで、より場面把握がしやすくなった。</p> <p>(ワークシートの交換)</p> <p>○考えをもてた子どもは自信につながり、まだもてていない子どもは、考えをもつ手がかりになった。</p> <p>(子どもたちの姿)</p> <p>○子どもたちが聞き合う姿が見られた。</p> <p>○教師の問いに対して、よく反応し、価値に迫る発言をする子どももいた。</p> <p>(教師の役割)</p> <p>○「どういうこと?」「どうして?」「みんなはどう?」など問い返すことで、考えをより具体的に分かりやすくしていた。</p> <p>(板書)</p> <p>○なすの変容を通して、「にんじんとらっかせい」も仲間になって遊んでいるということが分かる板書になっていた。</p> <p>○Y チャートを用いることで、三つの考え<みんな同じ><相手の気持ち><仲よく>が分かりやすく整理されていた。</p> <p>○子どもの考えも簡潔に板書されていて、友だちの考えをとらえやすかった。</p>	<p>(役割演技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なすの態度が変わる前と後の場面に取り入れることで、「にんじんやらかせい」の気持ちがどう変わるかが明確になる。 ●より多くの子どもたちに体験させたり、演技後に、どんな気持ちだったかを聞いたりして、一対一にならないように全体で共通理解する場があるとよかった。 <p>(考えの出し合い・板書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●考えがたくさん出されていたが、発表していない子どもがどの考えと似ているのか挙手させると、考えの共有化ができる。 ●それぞれの考えのキーワード<同じ><気持ち><仲よく>が出ていたが、教師のねらいに向かうために、アンケート結果をもとに、実際の生活とつなげて、本音を語る時間をもっとあるとよかった。 ●考えを出し合う場面で、発表した子どもの考えだけでなく、子どもがつぶやいた言葉も板書していくと考えが広がっていく。

(3) その他

成 果	課 題
<p>○聞き方の上手な子どもを褒めたり、子どもたちの意識を集中させる声かけをしたりと、学びに向かわせる手立が見られた。</p> <p>○机間指導をしながら、書き終わった子どものワークシートにスタンプを押し、一人ひとりの考えを認めていた。</p> <p>○ワークシートにめあてをすべて書かせるのではなく、本時のポイントだけを書かせるのはとてもよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●考えを出し合ったり、話し合ったりする時間がもう少しあるとよかった。 <p>→場面把握は、低学年は15分くらいが目安。先に登場人物や場面をおさえてから範読したり、範読しながら挿絵を貼ったりする方法などもある。高学年の目安は5～10分。</p>

第4学年 体育科学習指導案

日時 令和4年7月11日(月)2校時

授業者 4年1組 池邊 恭子

○研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

○部会研究仮説

子どもたちに自分の課題を明確にとらえさせ、課題に沿った場の工夫をし、お互いに伝え合う活動をさせることで、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

○めざす子ども像

めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子ども

1. 単元名 「作戦を工夫して、みんなが協力して楽しめるポートボールをしよう」(ボール運動:ポートボール)

2. 租税教育との関わり

友だちのよさを認め、協力して活動する中で自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする。

(集団と社会的自立)

3. 単元目標

ポートボールの行い方を理解し、易しいゲームをすることによって、ルールを守り、素直に勝敗を受け入れ、ポートボールに進んで取り組むことができるようにする。また、自分たちのチームの課題に応じた簡単な作戦や練習方法を考え、選択するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

4. 評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(主)
ポートボールの行い方を理解している。(A) チームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをしている(B)	規則を工夫し、簡単な作戦を考えている。(A) チームの課題解決のための作戦や練習方法を選択するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(B)	ポートボールに進んで取り組んでいる。(A) ルールを守り、素直に勝敗を受け入れようとしている。(B)

5. 指導の立場

(1) 教材について

ポートボールは、チームの仲間と協力して、攻め方や守り方を工夫することで楽しさが生まれる運動である。バスケットボールとは異なり、ゴールマンへのシュートのため、比較的シュートが決まりやすいだけでなく、ドリブルやパスに制限を設けたり、攻め方や守り方を工夫したりしやすい教材である。ガードマンを設けることで、シュートが決まりにくくはなるが、その分、シュートの仕方や作戦を工夫させることができる。

(2) 児童について

○運動に対してのアンケート

	はい	いいえ
1. 体育の授業は、好きですか。	37人	4人
2. ボール遊びやボール運動は、好きですか。	36人	5人

本学級の児童41人。体育の授業が好きな児童が多いが、好きではない児童もいる。その理由としては、「運動が好きではない」、「走るのがきつい」、「足がいたくなる」等であった。ボール遊びやボール運動については、好きな児童が多いが、そうではない児童もいる。理由として、「投げるのが苦手」、「ボールが当たるのがいたくて怖い」、「ボールを扱うのが難しい」等があげられ、ボールに対して恐怖心や苦手意識を持っていることが分かる。一方、ドッジボールやバスケットボール、バレーボールなどの球技に日頃から慣れ親しんでいる児童もおり、ボール運動の技術の差が大きいと考えられる。

今回の授業を通して、ボールに対して苦手意識や恐怖心を持っている児童が、ボール運動に親しみ、みんなで作戦を考える中で、ボール運動のもつ協力する楽しさを感じられるようにしたい。

話し合い活動については、コロナ渦ということもあり、他教科でも十分に行うことができていない。ペア活動も、ノート交換をするにとどまっている。今回の授業で、コロナウイルス感染予防を行った上で、作戦を友だちと一緒に考えることを通して、みんなで一緒に話し合い、自分の考えを伝え合う楽しさを感じさせたい。

(3) 指導について

本単元で、最も意識したいところは、みんなが「協力する」「楽しめる」というところである。はじめに、児童に「協力する」「楽しむ」とは、どういうことなのか、考えさせる。ボール運動が得意な児童も、投げたり、受け取ったりといった動作が苦手な児童もみんなが楽しめる活動になることが望ましい。そこで、基本的なルールに関しては教員が決めておき、ゲームをしながら、「みんなが楽しめる」ように児童と共にルールを変えたり、付け加えたりしていく。試合の前に技術を磨く補助運動（対面パスキャッチ、パスカット、ランニングパス、ふわっとシュート等）を十分にを行い、ボール運動が苦手な児童に対して、ボールに対する恐怖心をなくしていきたい。

① 自分の課題を明確にとらえる

試しのゲームをした後に、それぞれのチームで困ったこと、うまくいかないことは何か、課題を出させる。主に「シュートが入らない。」「シュートが打てない。」「パスが繋がらない。」「ボールに人が集まっている。」という困りから、シュートとパスに焦点をあてた2つの課題を作り、それぞれの課題を解決するためには、どうすれば良いのか作戦を考えさせる。また、iPadで試合を撮影したり、兄弟チームで試合を見合ったりすることで、チームごとの課題が明確になるようにする。

② 課題に沿った場の工夫

子どもたちがチームの課題や作戦、練習方法を考える際、ワークシートやホワイトボードに記入させる。作戦が思いつかない班については、他の班の作戦を交流させ、参考にしてもよいことを伝える。また、作戦を考えやすいように、マグネットを操作して自分たちの動きをイメージ化できるようにさせる。練習方法を自分たちで考えることが難しいチームには、補助運動に自分たちが足りないもの（声かけ、動き、広がるなど）を付け加えればよいことを伝える。

③ 伝え合い活動

自分たちのチームの課題や作戦、練習方法を考える際に、まず、チームごとに自分の考えを伝え合い、相談する場を設定する。その後、全体交流をし、他のチームの作戦も参考にしてもよいことを伝える。また、作戦を生かすための練習方法を考えさせ、お互いの意見を伝え合う場を作り、練習をさせる。終わりの試合をした後、作戦を生かした動きができたのか、iPadを見ながらチームごとに振り返り、お互いの考えを伝え合わせる。

6. 指導計画（全6時間）

時間		めあて	学習活動	評価計画
1時	みんなで協力して、楽しいポートボールをしよう。	ポートボールの仕方を知り、基礎となる練習をしよう。	・学習の見通しを知る。 ・めあての「協力」「楽しさ」の意味を考える。 ・使用する道具やルールについて知る。 ・基礎練習をする。(対面パスキャッチ・パスカットランニングパス・ふわっとシュート)	知A
2時		試しのゲームをして、ポートボールに親しもう。	・試しのゲームをして、ポートボールに親しむ。 ・ゲームをして、分からなかったことや困ったことを出し合い、ルールの確認をする。 ・個人の課題を確認する。	主A
3時		試しのゲームをして、自分たちのチームの課題を知ろう。	・試しのゲームを行い、チームの課題を考える。 ・チームの課題を解決するための作戦を考える。	知B
4時		チームの作戦に合った練習を考え、シュートをしよう。	・自分たちのチームの「シュート」の課題に合った作戦を考え、交流する。 ・作戦を生かした練習方法を考え、練習する。 ・考えた作戦を意識して、試合を行う。	思A
5時 (本時)		チームの作戦に合った練習を考え、パスを上手にまわそう。	・自分たちのチームの「パス」の課題に合った作戦を考え、交流する。 ・作戦を生かした練習方法を考え、練習する。 ・考えた作戦を意識して、試合を行う。	思B
6時		今までの作戦を生かして、楽しくポートボール大会をしよう。	・各チーム試合を行い、単元を通しためあての振り返りを行う。	主B

ポートボールの基本のルール

- ・1試合4分
- ・1チーム5～6人（プレイヤー3～4人 ゴールマン1人 ガードマン1人）
- ・プレイヤー3～4人全員にパスがまわったら、シュートできる。
- ・ドリブルはしない。
- ・ボールを持ったまま動いてはいけない。ただし、パスの一步は使ってよい。
- ・相手が持っているボールを奪ったり、体に触れたりしてはいけない。
- ・シュートが入ったら、相手チームのガードマンのパスで始める。
- ・4分間で得点が多いほうが、勝ち。

7. 本時案

(1) 題材名 ボール運動:ポートボール(5/6)

(2) 主眼 チームの作戦に合った練習について、作戦ボードを使って話し合ったり、補助運動に工夫を加えたりして考え、練習を生かしたパスまわしができるようにする。

(3) 展開

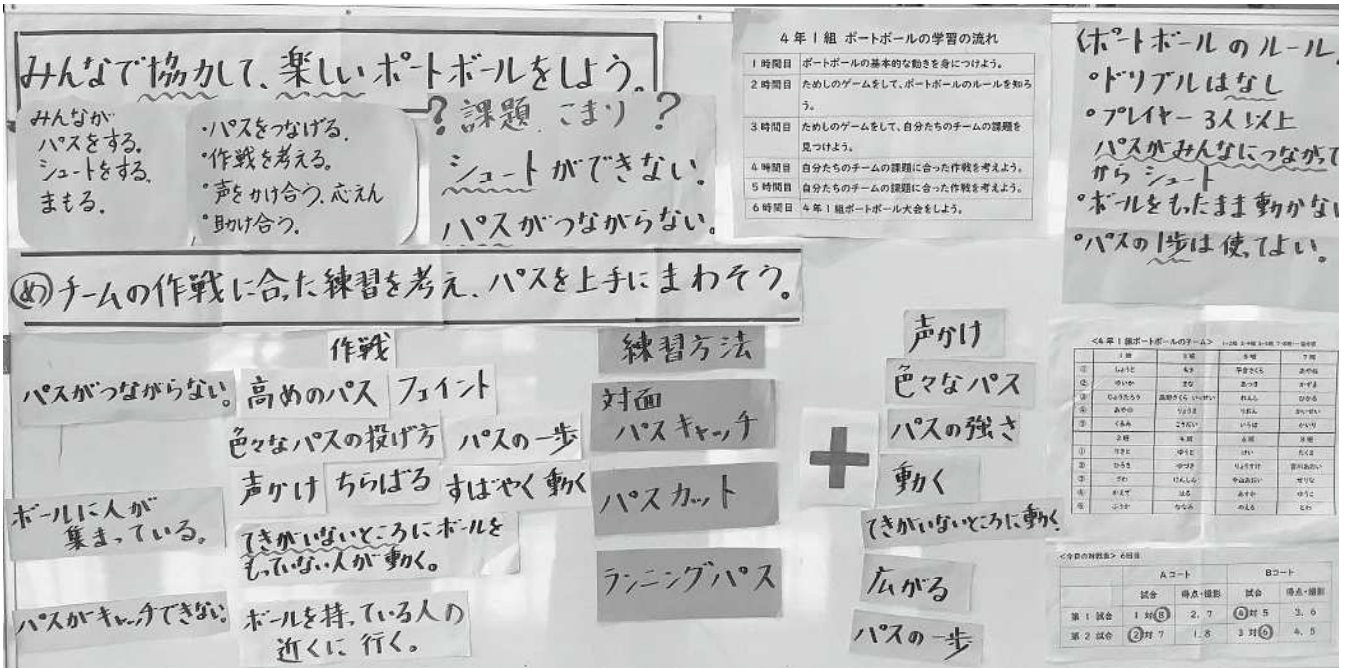
過程	学習活動	指導及び留意点	評価規準
導入	1. 本時のめあての確認をする。(12分)	<ul style="list-style-type: none"> ○用具の準備 ○準備運動をさせる。 アンクルホップ、ももあげ、うでふり ○補助運動をさせる。パスカット、ランニングパス <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて チームの作戦に合った練習を考え、パスを上手にまわそう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返らせ、「パス」に焦点をあて、めあてにつなげる。 	
展開	2. 前時までに考えたチームの作戦を、交流する。(5分) 3. 各チームで作戦に合った練習方法を考える。(5分) 4. 考えた練習方法をする。(6分) 5. ゲームをする。(10分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">課題 どんな練習をしたら、パスが上手にまわせるのかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時まで各チームで、課題と解決するための作戦について話し合ったことを交流させる。 ○いくつかのチームの課題と作戦を発表させる。 ○発表された作戦のいいところを真似してもよいことを伝える。 ○作戦に合った練習方法を考えさせる。 ○自分たちの作戦がうまくいくために足りないところを付け加えさせ、ホワイトボードに記入させる。 ○練習方法が考えられないチームには、今までやった補助運動を選ばせ、それを少し工夫する方法もあることを伝える。 ○チームに分かれて、考えた練習方法をさせる。 練習方法(例) ランニングパス +(相手がとれる強さ)(声のかけあい)(動きながら) パスカット +(人がいないところに動く)(声のかけあい) (一步をいかしたパス)(場所を決める)等 ○練習したことを使って、ゲームをさせる。(1試合4分) ○振り返りの際に確認できるように、ペアチームに iPad で動画撮影させておく。 	○チームの課題解決のための作戦や練習方法を選択するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(発言、ワークシート)
終末	6. チームごと、全体での振り返りをする。(7分)	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに振り返りをさせる。 ○練習を生かして作戦に合った動きができたかどうか、振り返らせる。 ○全体でまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まとめ パスを上手にまわすためには、自分たちの課題を解決できる方法を付け加えた補助運動をすればよい。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○全体で、作戦が上手くいったところを紹介させ、次時につなげる。 	

からだ部 (高) 学年部 検証授業のまとめ 成果と課題

指導者 池邊 恭子教諭(4年1組)

1. 単元名 ボール運動(ポートボール)
2. 題目 作戦を工夫して、みんなが協力して楽しめるポートボールをしよう(5/6)
3. 主眼 チームの作戦に合った練習について、作戦ボードを使って話し合ったり、補助運動に工夫を加えたりして考え、練習をいかしたパスまわしができるようにする。

4. 板書



5. 検証授業のまとめ

(1) 課題の設定<自分の課題を明確にとらえる(課題に沿った場の工夫)>

成果	課題
<p>(課題の設定)</p> <p>○前時までに取り組んだことを丁寧に確認し、そこから課題(作戦)につなげていた。</p> <p>(場の工夫)</p> <p>○練習の場の設定がよく効率的に練習ができていた。</p> <p>○「パス」という課題の中に様々な練習方法があり、多様なプレーが生まれていた</p>	<p>(課題の設定)</p> <p>●チームの課題はそれぞれがもっていたが、全体の課題が明確になっていなかった。</p>

(2) 伝え合い活動<伝え合い活動の工夫>

成果	課題
<p>(話し合いの活性化)</p> <p>○ホワイトボードを活用し、児童のポジションを視覚的にとらえさせることで、話し合いが活性化された。</p> <p>○振り返りの場面で iPad を活用したことは効果的だった</p>	<p>(話し合いの活性化)</p> <p>●体育での話し合いにまだ慣れていないのか、声が小さく聞き取りづらい班もあった。</p> <p>●iPad を見る視点を与えると、より効果的な振り返りができた</p>

<p>た。</p> <p>○全体で作戦を共有したことで、各グループでの話し合いが焦点化された。</p> <p>○教師が各班を回って声かけしてよかった。</p> <p>○作戦を選択制にすることで、話し合いが苦手なグループにも取り組みやすくなっていた。</p>	<p>きるのではないか。</p> <p>●チームの動きや作戦についての話が、うまくできていない班もあった。話の流れなどを作っておくといいのかもしれない。</p> <p>●選択制にすることで取り組みやすくなるが、選んだ根拠や作戦のよさについて話し合うような、深い話し合いにはなりにくい。選択制は発達段階や児童の実態に応じて使っていくとよい。</p>
--	---

(3) その他

成 果	課 題
<p>(学級づくり)</p> <p>○試合後の拍手など、楽しんで学習に向かう姿が見られた。</p> <p>○ルールを守って楽しもうとする雰囲気が良かった。</p> <p>(体育学習)</p> <p>○運動量がしっかり確保できていた。</p> <p>○補助運動により、技能面の向上も図られておりよかった。</p> <p>○試合中の児童同士の声かけやアドバイスの姿がよかった。</p> <p>○全員参加させるためのルールの工夫がよかった。</p> <p>(板書)</p> <p>○児童が選択するときに見やすいような板書になっていた。</p> <p>○色分けされた板書がとても見やすかった。</p>	<p>(体育学習)</p> <p>●競技に慣れ親しんでいくのにある程度の時間と経験が必要。体育の課題。</p> <p>●本時の学習内容を成り立たせるためには、体育の時間だけでは難しい。何か良い方法はないか。</p> <p>(板書)</p> <p>●多くの貼り物があり、遠くの児童には見にくかった。見えやすくする工夫が必要。</p>

本日の指導案

第6学年 算数科学習指導案

日時 令和4年11月9日(水)

授業者 6年2組 櫻木 美津代

○研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成
～課題の設定と伝え合い活動を通して～

○研究仮説

数学的活動において、子どもたちの声から課題を生み出し、自分の考えをノートに書かせ、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

○めざす子ども像

よく考えて学びを深める子ども

1. 単元名 データの見方

2. 租税教育との関わり

税の大切さを理解する。(税の学習)

- ①表やグラフ、数値を通して数についての感覚を豊かにする。
- ②表やグラフ、数値を用いて表現する力を高める。
- ③目的に応じて資料を収集し、それらを分類・整理し、表やグラフ、数値で表すことができるようにする。

3. 単元目標

代表値や、度数分布を表す表とグラフ、及び統計的な問題解決の方法について理解し、目的に応じてデータを集めて分類整理し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察する力を身に付けるようにする。また、その過程を振り返り、統計的な問題解決のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解している。また、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知っている。	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断しているとともに、その妥当性について批判的に考察している。	データを収集したり分析したりすることについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

5. 指導の立場

(1) 教材について

統計的なデータをグラフや表に表すことについて、これまでに、量的データの大きさを示す棒グラフ、時系列データの変化の様子を示す折れ線グラフ、データの割合を示す帯グラフと円グラフ、及び一次元や二次元の表を指導してきた。また、5学年では、統計的な問題解決の方法について知らせ、「問題—計画—データ—分析—結論」という統計のプロセスによ

って考察することを経験させた。

本単元では、これらの既習事項を生かし、日常の事象について目的をもって調べ、統計的な手法を適切に活用して分析したり判断したりする活動を行う。その過程では、データ全体を表す指標として平均値、中央値、最頻値などの代表値について指導するとともに、量的データの分布の様子を捉えることにも着目させ、ドットプロットに表し、度数分布を表す表や柱状グラフについても理解を図る。

統計的な問題解決の対象は不確実な事象であるため、得られた結論について、それが妥当なものであるかどうかを批判的に考察することが大切である。そして、更に検討が必要であると判断した際には、再度問題解決の過程を行うことになる。このような一連のプロセスを支えるものが、活動の最初にある目的意識である。児童たちにとって身近で関心の高い題材を工夫し、目的意識をもって問題解決に取り組めるようにしたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことのできる子が多い。しかし、「恥ずかしい」「自信がない」との理由から、挙手しての発言は数名の児童に限られている。そこで、考えを説明する機会を増やすため、ペアで自分の考えを伝え合ったり、友だちの考えをペアで説明しあったりする機会をもつようにしている。また、課題を早く解き終わったときには、困っている友だちに教える活動も取り入れている。しかし、日常的な学習の中では、データを見て読み取ったり、何かを考えたりする機会はほとんどないため、本教材は丁寧に扱っていく必要があると考える。

本単元のレディネステストの実施結果は、次の通りである。

- ・平均を求める。 正答数 30/39人(平均の求め方を忘れている。計算間違い。)
- ・以上の意味を理解して数を選べる。 正答数 34/39人(その数を含めるということを忘れている。)
- ・以下の意味を理解して数を選べる。 正答数 30/39人(その数を含めるということを忘れている。)
- ・未満の意味を理解して数を選べる。 正答数 35/39人(その数を含めないということを忘れている。)
- ・以上、未満の数を適切に選べる。 正答数 31/39人(適切に数を選べていない。)

この結果から、平均を求めるためにすべての数値を足し、それを個数で割るという基礎的な技能が身につけていない児童がいることが分かった。特に、足し算は出来ているのに割り算を間違えている子が目立った。「以上」、「以下」、「未満」の語句については適切に理解できていない子がいた。事前に四則計算の確認、語句の復習を行いたい。

この授業を通して、目的に応じてデータを分析し、その結果を多面的、批判的に考察しながら新たな見方を獲得していくとともに、話し合いの中で友だちの意見に耳を傾け、自分の考えを振り返ることのできる児童を育てたい。

(3) 指導について

本単元では、導入時に学校の図書委員の活動という設定で、「読書チャンピオンを決めよう!」という目的意識をもたせる。1組と2組の読書記録のデータから、「どのような観点で比べればよいか」という問いについて話し合わせの中で、学級の人数が異なるため合計の冊数では比べられないことに気づかせ、平均で比べるという考えに着目させていく。

その後、平均で比べることが本当に妥当なのかという疑問からドットプロットに表し、ドットプロットの特徴を考察する中で、新たな指標として、中央値や最頻値、度数分布、柱状グラフについても学習をさせる。単元の中では、目的に応じてデータを分析し、その結果を多面的、批判的に考察しながら新たな見方を獲得していく。その過程において、児童の問いの連続によって学習を進めていくようにする。

本時では、応用として、1組と2組の8の字とびの記録を様々な観点で分析させ、その結果を自分の考えの根拠として話し合わせ、目的に応じて妥当な結論を導き出していくようにする。

① 子どもたちの声から課題を生み出す

1組と2組の8の字とびの結果を、ドットプロットや度数分布表、柱状グラフ、表などに表し、データの特徴や傾向を分析させる中で、どこに着目して結論を導き出すのかを明確にする必要があることに気づかせる。その中から「どのようなデ

ータの見方で代表を決めるといいかな。」という課題を設定する。

② 考えをノートに書く

ワークシートを用意し、ドットプロットや度数分布表、柱状グラフ、データを整理する表に数値を記入させる。それをもとにどのように考えるか、結論と根拠に分けてノートにまとめ、ロイロノートで全体に共有できるようにする。配慮が必要な児童には、一部記入済みのワークシートをヒントカードとして勧めたり、自分の考えを書かせる場面で個別に声かけをしたりする。

③ 伝え合い活動

まずは、ペアで自分の考えを伝える場を設定する。その際、ノートを見せながら根拠となったデータを基に自分の考えを説明させたい。その後、考えが似ている人同士で、互いの根拠を話し合い、自分の考えをより明確にもたせるようにして全体交流につなげたい。全体交流の場では、ロイロノートでノートに書いた自分の考えを黒板に投影し、説明させる。

また、友だちの考え(わかったこと)の説明をする時間も取り入れたい。

6. 指導計画(全11時間)

時間	めあて	学習活動	評価規準
1	データ全体を表す代表値としての平均値の意味を理解しよう 租一①	・「読書チャンピオンを決めよう!」の活動をきっかけに、データを収集、分析することに関心をもつ。 ・人数が異なる2つの組の読書調べの記録について、組全体の比べ方を考え、平均値を求めて比べる場合があることを知る。	・集団の特徴を表す値として用いられる代表値としての平均の意味について理解している。(知・技)
2 ・ 3	ドットプロットの意味と使い方や、代表値として最頻値や中央値を用いる場合があることを理解しよう 租一①	・読書調べの記録について、散らばりの様子をドットプロットに表して特徴や傾向をよみ取る。 ・最頻値、中央値を調べ、代表値の意味を知る。 ・1組と2組の読書調べの結果について、それぞれの代表値を比べて、気がついたことを話し合う。	・ドットプロットの特徴や使い方、及び最頻値、中央値などの代表値の意味や求め方を理解している。(知・技) ・統計的に解決する問題を設定し、その解決のために適したデータを収集し分類整理して分析して、結論を得ている。 また、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかの別の観点や立場から批判的に考察している。 (思・判・表)
4	データ分布の様子を度数分布表に表し、その特徴をよみ取ろう 租一②	・読書調べの記録について、本の冊数を5冊ごとに区切り、度数分布表にして、その特徴をよみ取る。また、階級、度数の意味を知る。	・度数分布表の特徴や使い方、階級と度数の意味を理解し、度数分布表に表したりよみ取ったりすることができる。 (知・技)
5	度数分布表をもとに柱状グラフに表し、それをよみ取ろう 租一②	・読書調べの記録の度数分布表をもとに、柱状グラフに表して、その特徴をよみ取る。	・度数分布を表すグラフとして、柱状グラフの特徴を理解し、柱状グラフに表したりよみ取ったりすることができる。(知・技)

6 ・ 7	様々な観点からデータを分析し、その結果を根拠にして結論をまとめよう 租一③	・様々な観点で分析した結果を表に整理して気づいたことを話し合い、結論として自分の考えをまとめる。 ・「目的に合った代表値」平均値、最頻値、中央値について、それぞれどんな場合に適した代表値であるかを知る。	・代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの使い方を理解している。(知・技) ・度数分布表や柱状グラフからデータ全体の分布の様子を捉えたり、代表値などを用いたりして、問題の結論について判断している。(思・判・表)
8	柱状グラフが用いられる場面や見方について理解を深めよう 租一②	・1965年と2015年の年齢別人口の柱状グラフ(人口ピラミッド)をよみ取り、変化の様子について考察する。 ・「グラフを使って伝えよう」統計グラフコンクールのポスターをもとに、身のまわりの問題を統計的に解決し、その結果をわかりやすくまとめることに関心をもつ。	・年齢別人口の柱状グラフ(人口ピラミッド)をよみ取り、変化の様子について多面的に考察している。 (思・判・表)
9 ・ 10 本 時	データを分析して、代表を決めよう 租一②③	・統計的な問題解決の方法について知る。 ・「データを分析して、代表を決めよう!」という目的意識から、1組と2組の8の字とびの記録について様々な観点で分析し、その結果を根拠に結論をまとめる。	・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題の結論について判断している。(思・判・表) ・データを収集したり分析したりすることについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えている。 (主)
11	学習したことを確かめよう 租一③	・今までの学習を振り返り、内容を確実に身に着ける。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。(知・技) ・「データの見方」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。 (思・判・表)

7. 本時案

(1) 題目 データを分析して、代表を決めよう (10/11)

(2) 主眼 8の字とび大会の学年代表について、各組のデータを様々な見方で分析し、自分の選んだ組とその根拠について交流することにより、多面的に捉え検討しながら、よりよい代表を決めようと粘り強く考えることができるようにする。

(3) 展開

過程	学習活動	支援及び留意点	評価規準
導入	1. 前時を振り返り、データを分析して、代表を決めることを確認する。(5分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて データを分析して、代表を決めよう。 </div> <p>○児童は、前時までにそれぞれがデータを分析し、どの見方を使って考えたのか、どちらの組を代表にするのか、根拠を明らかにしてノートに書き、ロイロノートで提出している。</p> <p>○どんな組を代表にするべきか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常にいい記録を出せる組 ・より多い回数を跳べる組 ・だんだん調子が上がっている組 	
展開	2. 全体で考えを出し合い、結論をまとめる。(20分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題 どのようなデータの見方で代表を決めるといいかな。 </div> <p>○自分の考えを書いたノートを、ロイロノートで共有させる。</p> <p>○根拠がいくつかある児童は、台紙の色を2色にするよう伝えておく。</p> <p>※配慮が必要な児童は、事前にノートに書く事を一緒に考えておく。話をしやすい児童でペアにする。</p> <p>○結論と理由を説明させる。</p> <p>○始めに隣同士で自分の考えを説明させる。</p> <p>○自分の考えと似ている人同士ペアになり話をさせ、根拠は何かを確認させる。</p> <p>○全体に説明するときは、他者説明や説明リレーを取り入れる。</p>	
		<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〈最大値〉</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〈伸び率〉</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〈平均値〉</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〈勝率〉</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">〈安定性〉</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 18%;"> <p>1組を選ぶ。</p> <p>ドットプロットを見ると、1組の最大値は405回で2組の最大値は322回だから。(だんだん跳ぶ回数が増えているから。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 18%;"> <p>1組を選ぶ。</p> <p>記録を見ると、だんだん跳ぶ回数が伸びているから。(後半は、1組が連続で勝っているから。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 18%;"> <p>2組を選ぶ。</p> <p>表を見ると、1組の平均値は289.5回で、2組の平均値は290.4回だから。(勝率も高いから。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 18%;"> <p>2組を選ぶ。</p> <p>1回ごとの勝敗で見ると、2組が6回勝っているから。(平均も1組より跳べているから。)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 18%;"> <p>2組を選ぶ。</p> <p>ドットプロットを見ると、2組の方が記録がまとまっていて、記録に安定感があるから。</p> </div> </div>	

	<p>3. 優勝ラインや平均値の値を検討することで、多面的に分析する必要性を理解する。 (15分)</p>	<p>○根拠を複合的に述べる児童もいると考えられるので、十分に考えを言わせるとともに、聞いている児童が理解できたか確認するため、適宜隣同士で説明する時間をとる。</p> <p>○話し合いの中で、質問や意見を言わせるようにする。</p> <p>○話し合いの中で「優勝ライン」について意見を出すと考えられるので、「優勝ラインを設定するとどうなるかな。」と問い、全体で考えを出し合わせる。</p> <p>○どちらにするか迷っている様子が見られたら、隣同士で相談する時間をとる。</p> <p>○優勝ラインを280回とみると、達成率が1組50%、2組70%となる。(安定性がある)</p> <p>350回とみると、達成率が1組30%、2組0%となる。(伸び率が良い)というそれぞれの見方を各自で検討させた後、全体で確認する。</p> <p>・280回なら2組だし、350回なら1組を選ぶといい。</p> <p>○今までの話し合いから、もう一度代表の選び方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>深める課題 今までの話し合いから、どちらを代表に選ぶかな。</p> </div> <p>と問い、今の考えをノートに書くことを伝える。</p> <p>・やっぱり、○組を選ぶ。なぜなら・・・。</p> <p>・考えが変わって、○組を選ぶ。なぜかという・・・。</p> <p>○データは色々な見方があることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ 最大値や伸び率で考えると1組を選ぶのが良い。 平均値や勝率、安定性で考えると2組を選ぶのが良い。 私は、()が大切と考えて、○組を選ぶ。 データをいろいろな見方から分析し、考えることが大切。</p> </div>	<p>○8の字とび大会の学年代表を、各組のデータを様々な見方で分析し、多面的に捉え検討してよりよい代表を決めようと粘り強く考えている。 (ノート、発言)</p>
<p>終末</p>	<p>4. 振り返りをする。 (5分)</p>	<p>○ノートに今日の学習の振り返りを書かせる。</p>	

8 板書計画

めあて データを分析して、代表を決めよう。

課題 どのようなデータの見方で代表を決めるといいかな。

深める課題 今までの話し合いから、どちらを代表に選ぶかな。

どちらの組を6年の学年代表にするか決める。

80名とびの記録

回数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
1組	205	228	212	262	335	220	310	361	405	357
2組	288	295	395	264	270	315	322	283	286	275

見通し

常にいい記録を出せる組。

より多い回数を跳べる組。

だんだん調子が上がっている組。

〈最大値〉	〈伸び率〉	〈平均値〉	〈勝率〉	〈安定性〉
1組を選ぶ。 ドットプロットを見ると、1組の最大値は405回で2組の最大値は322回だから、(だんだん跳ぶ回数が増えているから)。	1組を選ぶ。 記録を見ると、だんだん跳ぶ回数が増えているから、(後半は、1組が連続で勝っているから)。	2組を選ぶ。 表を見ると、1組の平均値は280.5回で、2組の平均値は290.4回だから、(勝率が低いから)。	2組を選ぶ。 1回ごとの勝敗で見ると、2組が6回勝っているから。(平均も組より跳べているから)。	2組を選ぶ。 ドットプロットを見ると、2組の方が記録がまとまっていて、記録に安定感があるから。

振り返り

まとめ 最大値や伸び率で考えると1組を選ぶのが良い。平均値や勝率、安定性で考えると2組を選ぶのが良い。私は、()が大切と考えて、○組を選ぶ。データをいろいろな見方から分析し、考えることが大切。

1組…最大値や伸び率が大切。

2組…平均値や勝率、安定性が大切。

優勝ライン? 280回とみると、達成率が1組50%、2組70%(安定性がある)

350回とみると、達成率が1組30%、2組0%(伸び率が良い)

第5学年 道徳科学習指導案

日時 令和4年11月9日

授業者 5年4組 安部 修平

○研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成

～課題の設定と伝え合い活動を通して～

○部会研究仮説

道徳科において、子どもが考えたいような課題を設定し、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを深め、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

○めざす子ども像

自分の行動を振り返り、周りの人や物を思いやる子ども

1. 主題名 働く幸せ【C 勤労、公共の精神】

2. 教材名 「働く幸せ ―チョコレート工場の本田さん―」（出典：小学 道徳 ゆたかな心 光文書院）

3. 租税教育との関わり

働くことの喜びを感じ、公共のために役に立つことをする。（集団と社会的自立）

4. ねらい

本田さんの感じる働く幸せについて、〈仕事ができること〉〈認められること〉〈みんなのためになること〉に着目して考えることを通して、働くことの喜びを理解するとともに、自分にできることは何かを考え、社会に奉仕し、公共のために役に立つとする道徳的実践意欲を育てる。

5. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

働くということは、自分の生活を豊かにするだけのものではない。働くことによって社会的責務を果たすことで、自分も「社会の一員」であるという自覚を養うことができる。さらに、働くことで自己の存在感や、人の役に立つ喜びによる充実感も味わうことができる。また、働くことで得られる忍耐強さや思いやりの心は、自己の人間的成長に深くつながっている。つまり、働くことの意義を理解することは、公共の精神の意義を理解することにつながり、社会への奉仕活動にも関わろうとする意欲にもつながる。その活動によってさらに自分を成長させることにつながっていくのである。

この教材を通して、人のために働くことが、自分自身の喜びにつながることや社会生活を支えていることを理解し、人の役に立つ仕事を進んで行おうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、4月より上級生となり、下級生の良い手本を目指し、学校のために役に立ちたいという思いを持っている。学校生活では学級の係活動や掃除に加え、委員会活動が始まり、新たな仕事も楽しみながら、真面目に取り組んでいる姿が多く見られる。

しかし、児童の仕事ぶりについて、仕事をする目的がはっきりしておらず、どこか丁寧さに欠ける印象を受ける。「誰のために」や「何のために」を意識して活動していないためか、単に仕事をこなしているような児童が多くいる。同じ委員会活動

を行う6年生は、委員会活動以外でも学校の中心として活躍しており、その仕事ぶりが全校の場で感謝される機会が多いが、5年生の児童は6年生の児童に比べて、褒められる機会が少ないため、満足感が低いことも考えられる。

以下は今回授業するにあたり、働くことに関するアンケートの実施結果をまとめたものである。

【働くことに関するアンケート結果】(アンケート回答数:31人)

①	働くことについて、どんなイメージをもっていますか。		
	・忙しい ・疲れる ・大変 ・社会では嫌な仕事が多い ・難しい	・お金を稼ぐ ・責任(役目)がある ・楽しい ・いろんな経験ができる ・生きる上で大切	・みんなを支える ・誰かの役に立っている ・達成感がある

		満足している	満足していない
②	5年生になって、自分の仕事(係活動や委員会活動)に満足していますか。	87.1% (27人)	12.9% (4人)

		満足している	満足していない
③	それは、どうしてですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事が楽しいから。(8人) ・やりがいがあるから。(3人) ・仕事を教えてくれる優しい人がいるから。(3人) ・やるべき仕事があるから。(2人) ・いろんな人との交流があるから。(2人) ・仕事がうまくできているから。(2人) ・自分の仕事が好きだから。(1人) ・仕事量がちょうどいいから。(1人) ・同じ仕事のひと協力や助け合いをすることで、生活が困らないから。(1人) ・学校やみんなのためになるから。(3人) ・学校みんなが笑顔になるかもしれないから。(1人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を正確にできていないから。(2人) ・やることが多く、自分の時間がないから。(1人) ・もっと役立ちたいと思っているから。満足せずにはがんばろうと思うから。(1人)

アンケート結果から、働くことに対して多くの児童がネガティブなイメージより、ポジティブなイメージをもっていることが分かった。その結果、自分の仕事の満足感も高くなっているのではないかと考えられる。しかし、自分の仕事には満足しているが、「楽しい」や「やりがいがある」など、自分自身がその仕事に満足しているだけで、「人の役に立っている」や「周りのためになっている」というところまでは至っていないことも分かった。

勤労、公共の精神に関しては4年生の1学期に「みんなのためにできること」、2学期に「みかん出し」において、自分の役割と働くことの大切さを知り、みんなのために進んで働こうとすること、自分の力をみんなのために生かすことができるという仕事のよさが分かり、人のために進んで働こうとすることをそれぞれ学習している。

「特別の教科 道徳」の学習においては、ほとんどの児童が自分の考えをもつことができ、伝え合う活動(全体交流やペアトーク、ノート交換)を行うことで、友だちの考えと同じところや違うところを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えることができる児童が多い。また、交流を通して自分の考えを深めたり、広げたりする児童も増えてきている。

5年生で学んだ価値は、学年の道徳掲示板に掲示し、学習の積み重ねを視覚的に捉えることができるようにしている。

(3)教材について

本田さんは、チョークなどを製造する会社（日本理化学工業株式会社）で働いている。この会社では、障がいのある人が社員の半数以上も働いているが、障がいの有無にかかわらず、働くすべての人が「働く幸せ」を感じている点に特徴がある。言葉をスムーズに話すことのできない本田さんだったが、いつも一生懸命に仕事をする集中力や丁寧さが認められ、社員として働くことになり、さらに新しい仕事の担当も任されることになる。本田さんはこの仕事に対して、「楽しい」と一言だけ話している。働くことが幸せになっている本田さんの仕事ぶりに共感することで、働くことが自分自身の成長や誰かの役に立つ喜びにつながることを理解し、働くことの意義について考えを深めることができる教材であると考えた。

6. 指導について

①子どもが考えたいくなるような課題の設定

はじめに、何のために働くのかということについて考えを出し合わせ、働くことのイメージを広げていく。自分の親の仕事に限らず、児童の身近な仕事についても出させるようにし、資料につなげていく。

次に、あらすじをつかませる中で、働き始めと現在の本田さんの仕事の仕方が変化したこと気づかせる。本田さんが働くことに対して「楽しい」「幸せ」だと感じていることをおさえた上で、子どもたち自身がどんなことに幸せを感じるかを問う。働くことに幸せを感じている本田さんとの違いを明確にしたところで、『本田さんの感じる「働く幸せ」とは、どんなことかな。』と問う。児童から出された考えを〈仕事ができること〉〈認められること〉〈みんなのためになること〉の視点に着目させ、考えることを通して、本田さんの感じる「働く幸せ」について話し合わせる。

本田さんの感じる「働く幸せ」について考えたことを出し合わせながら、働くことは自分の生活のためだけでなく、みんなの生活を支えるものでもあることに気づかせるため、同心円を用いて視覚的に捉えさせる。

一方で、自分たちの仕事ぶりについて、事前に行ったアンケートの結果を用いて生活を振り返らせる。本田さんの働き方を表した同心円と自分の働き方を比較させ、その違いを確かめさせる。本田さんのように働くことが幸せにつながる働き方をしていくために、「自分の仕事をするときに大切なことは、どんなことかな。」と問い、実際に自分たちがしている仕事を想起させながら、多様な考えを出させる。

終末では、何のために働くのかについて、本時の学習を通しての新たな気づきや友だちの意見を聞いて考えたことなどを振り返らせ、これからの自分の仕事に生かしていこうという意欲をもたせる。

②伝え合い活動の工夫

課題に対して個人で考えた後、ペアトークを行わせる。友だちの考えを聞き合うことで、いろいろな見方や感じ方、考え方があることを知り、自分の考えを広げたり、比較して考えたりできるようにすることをねらっている。その際、友だちの考えが自分と似ていれば赤、違っていれば青でサインをつけさせる。サインをもらうことで、自信をもてない児童に自信をもたせ、全体場で発表させたい。

また、友だちの考えを共有したり、交流したりしやすくするための板書の工夫を行う。本田さんの仕事ぶりを時系列で表し、本田さんの働き方の変化に気づかせたり、「何のために働くのか」という視点を、同心円を用いて視覚的に捉えさせたりする。発言内容もポイントを絞って箇条書きにしたり、キーワードで示したりし、児童が思考を整理しやすいようにしていく。さらに、事前にとった働くことに関するアンケートを活用し、自分たちの仕事について振り返らせることで、自分事として考えを出し合えるようにしていく。

7. 本時案 面多面的に考えさせる発問 角多角的に考えさせる発問

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入	<p>1. 本時のめあてを確認する。 (5分)</p>	<p>○何のために働くのかを問う。 ・お金を稼ぐため ・もっと大きな仕事をするため。 ・家族のため ・生活のため ・学校のため</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>め何のために働くのか考えよう。</p> </div>	
展開	<p>2. 本田さんの「働く幸せ」について話し合う。 (20分)</p> <p>3. 仕事をするときに大切なことについて話し合う。 (15分)</p>	<p>○資料「働く幸せ —チョーク工場の本田さん—」を、挿絵を提示しながら範読し、話の内容をつかませる。</p> <p>○働き始めたときの本田さんの立場や仕事の仕方をおさえ、本田さんが何のために働いているのかを同心円で表現する。</p> <p>○仕事ぶりが認められ新しい担当となった本田さんの仕事の様子をおさえ、本田さんの仕事ぶりが働き始めたときと現在とでどのように変わったか考えさせる。</p> <p>○自分はどんなことに幸せを感じるかを問い、働くことに幸せを感じている本田さんとの幸せの感じ方の違いに気づかせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>面本田さんの感じる「働く幸せ」とは、どんなことかな。</p> </div> <p>○ノートに考えを書かせ、ペアで共有した後に出し合わせる。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <p>〈仕事ができること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことがあっても仕事ができること。 ・社員として仕事を始めることができたこと。 <p>〈認められること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上司や仲間に仕事ぶりが認められたこと。 ・認められて、新しい仕事ができること。 <p>〈みんなのためになること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることは何か考えること。 ・誰かの役に立つ(勇気を与える)こと。 <p>○〈みんなのためになること〉が出にくい場合、実際に本田さんの会社のチョークを提示しながら、「本田さんは自分のためにだけ仕事をするのか」と問い、本田さんの仕事が社会の役に立っていることに気づかせる。</p> <p>○本田さんは自分にできることは何かを考え仕事を続けた結果、自分の生活だけでなく、社会(周囲)を支えていることに気づき、それが働く幸せになったことを確認する。</p> <p>○自分の仕事ぶりについて、事前に行ったアンケートの結果を提示し、生活を振り返らせ、自分は同心円のどこに位置するか全体で共有する。</p> <p>○働くことが幸せにつながる働き方をするために、どんなことを意識して仕事をしていくことが大切か、実際に自分たちがしている仕事を想起させ、考えさせる。</p>	

		<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">角 自分の仕事をするとき大切なことは、どんなことかな。</p> <p>○ノートと付箋に考えを書かせ、ペアで共有した後に出し合わせる。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動する仲間のことを考える。 ・困ったことがあれば助け合う。 ・学校の施設を使う人の気持ちを考える。 ・自分の行動が周りにどう影響するのかを考える。 <p>○自分の考えが同心円のどこに位置づくのかを考えさせながら発表させ、付箋を板書に貼る。</p> <p>○今後の学校みんなのために働く場面を想起させ、働くことについて意欲をもつことができるようにする。</p>	<p>・自分にできることは何かを考え、社会に奉仕し、公共のために役に立とうとする意欲をもてたか。 (ノート、発言)</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>4. 本時の振り返りをする。 (5分)</p>	<p>○何のために働くのかについて考えたことをノートに振り返りとして書かせ、出し合わせる。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことが学校生活を支えていることが分かった。 ・みんなのために働くと、自分も嬉しい。 ・自分にできることを考え、みんなのために働きかけていきたい。 	

5. 板書計画

第21回
働く幸せーチヨーク工場の本田さんー

お金、家族、学校

めあて
何のために働くのか考えよう。

1 本田さんの感じる「働く幸せ」とは、どんなことかな。

働き始め

挿絵①

一生懸命に
集中力
ていねい
正確に
いつもまじめ

自分

自分 仲間

自分 仲間 社会

現在

挿絵②

きちんと準備
作業のくふう
みんなを考える
気を配る
仕事を教える

楽しい、幸せ

自分

学校

〈仕事ができること〉

- ・ 苦手なことがあっても仕事ができること。
- ・ 社員として仕事を始めることができたこと。

〈認められること〉

- ・ 上司や仲間の仕事ぶりが認められること。
- ・ 認められて、新しい仕事ができること。

〈みんなのために becoming 〉

- ・ 自分にできることは何か考えること。
- ・ 誰かの役に立つ (勇気を与える) こと。

2 自分の仕事をするときに大切なことは、どんなことかな。

振り返り

第3学年 体育科学習指導案

日時 令和4年11月9日(水)5校時
授業者 3年3組 佐藤 優介

○研究主題

自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成
～課題の設定と伝え合い活動を通して～

○部会研究仮説

子どもたちに自分の課題を明確にとらえさせ、課題に沿った場の工夫をし、お互いに伝え合う活動をさせることで、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。

○めざす子ども像

めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子ども

1.単元名 「みんなが楽しめるプレルボールをしよう」(ボール運動:プレルボール)

2.租税教育との関わり

友だちのよさを認め、協力して活動する中で自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする。(集団と社会的自立)

3.単元の目標

プレルボールの行い方を理解し、簡易化されたゲームをすることによって、ルールを守り、素直に勝敗を受け入れ、プレルボールに進んで取り組むことができるようにする。また、上手なパスやアタックについて考えていくなかで、自己やチームの特徴に応じた工夫を選択するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

4.評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に取り組む態度(主)
プレルボールの行い方を理解している。(A) チームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをしている。(B)	上手なパスやアタックについて考えている。(A) 自己やチームの特徴に応じた工夫を選択するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(B)	プレルボールに進んで取り組んでいる。(A) ルールを守り、素直に勝敗を受け入れようとしている。(B)

5.指導の立場

(1)教材について

本教材は、両手や片手でボールを打ちつけ(プレル)、得点を競い合う「ネット型ゲーム」である。味方と協力しながら簡単な作戦を考えて、相手のいないところにボールを返したり、相手のボールに素早く反応して移動したりして、攻守の切り替えを楽しむことができる。バスケットボールやサッカーなどと比較してディフェンスがないことや、コートに入る人数が3人と少ないため、簡単な作戦が考えやすい。また、バレーボールとは異なりネットの高さも低く、トスに対してノーバウンドでアタックをする必要もないため、ボール運動が苦手な児童も比較的楽しみやすい教材である。さらに、両手打ちやキャッチを認めるなどの、規則の工夫で児童に合った難易度に調整することもできる。

(2) 児童について

本学級の児童は32名。ボールを扱うチーム競技について、2年生ではボールゲームとして、ボールけりゲームを行った。しかし、これまでにネット型のゲームの経験はない。また1学期の体育や休み時間の様子を見ても、ボール操作に苦手意識を持っている児童がいる。

運動や体育についてのアンケートを取ったところ、以下のような回答を得られた。

○運動やスポーツをすることは好きですか。			
好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
22名	7名	2名	0名
○選んだ理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に入る前から体を動かすことが好きだった。 ・体を動かすとすっきりした気分になるから。 ・体育の授業でうまくできるから。 ・友だちや仲間と一緒にできるから。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業でうまくいかないから。 ・けがをすることがこわいから。 ・小学校に入る前から体を動かすことが苦手だから。 	

「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童がほとんどであった。否定的な回答の理由としては、「体育の授業でうまくいかないから」や「けがをすることがこわいから」「小学校に入る前から体を動かすことが苦手だから」などがあつた。また、「体育の授業は楽しいですか」という質問に対しては、全員が楽しいと答えた。運動が嫌いだと答えた児童も、体育の授業には楽しく参加できているようだ。さらに「体育の授業でできなかったことができるようになったきっかけ」を聞いたところ、「自分で練習した」「先生にコツを教えてもらった」という回答が多かつた。体育は楽しいと感じてはいるが、友だちとの関わりの中に楽しさを感じている児童は少ない。

話し合い活動については、3年生でもさまざまな教科でペア活動などを行ってきた。

話し合い活動についてのアンケートを取ったところ、以下のような回答を得られた。

○学級や友だちとの間で話し合う活動は、楽しいですか。			
楽しい	やや楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
15名	14名	2名	0名
○学級や友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。			
できている	どちらかと言えばできている	どちらかと言えばできていない	できていない
12名	14名	4名	1名

話し合い活動については、楽しいと答えている児童も多く、自分の考えを深めたり広げたりしていると答えている児童も多い。児童たちはお互いお互いの意見を言い合い、友だちの考えを知ることができるようになってきた。しかし、普段の授業の様子を見ていると、考えを言い合って終わることが多く、その考えを深めていくような話し合いになっていない。

(3) 指導について

まず、本単元の導入では、ボール運動が苦手な児童が「楽しそう」「やってみたい」と思えるように、プレルボールの動画を視聴して、イメージをもたせた後、みんなが楽しめるプレルボールとは何かを全員で考えさせる。また、単元の最初に単元計画を児童に提示し、単元の見通しをもたせることで、それぞれの時間に取り組むことを明確化し、達成感が感じられやすいようにしていく。次に、第2時・第3時では、試しのゲームを行わせる。ボール運動に不慣れな児童も多いため、試しのゲームの時間を十分に確保する。また、1秒程度のキャッチを認めるなどのルール変更も児童の実態に応じて行っていきたい。その中で、個人の課題やチームの課題についても振り返らせ、第4時・第5時につなげていく。第4時・第5時では、上手なパスやアタックについて考えさせ、それをプレーに生かせるようにしていく。考えさせる過程で、話し合いがうまくいかないこ

とが想定される。どの子も話し合いの土台に乗れるように、チームで取り組む課題を選択式にし、それについてのチームの動き(作戦)を話し合わせる。単元の最後には、プレルボール大会を行わせ、振り返りをさせる。その際、これまでの振り返りと比較させて、ボール運動ができるようになった実感をもたせたい。この経験から、ボール運動に対する苦手意識や恐怖心を少しずつなくしていきたいと考える。

①自分の課題を明確にとらえる

チームの動きを視覚的・客観的に確認できるように、iPad を用いて試合を撮影させる。また、兄弟チームとともに練習する時間を設け、友だち同士で動きを見合い、そこで気づいたことを伝え合わせる。

②課題に沿った場の工夫

パスやアタックに対するチームの課題を選択させるときに、全体で出させた課題の中で、自分たちのチームに足りないものを選択させることで、自分たちのチームにあった動き(作戦)につなげさせていきたい。その際、思考の流れがわかるようなワークシートを使わせたり、板書の工夫(内容ごとの色分け、表での整理)をしたりすることによって、児童たちが課題に合った作戦を選べるようにしていく。

③伝え合い活動

チームでの伝え合い活動が活発になるように、ホワイトボードを用いる。特に第4時・第5時では、チームの動き(作戦)を考えさせる際、マグネットを操作させることによって自分たちのポジションを視覚的に捉えやすくしていく。また、兄弟チームで練習を行わせ、練習中にもお互いの動き(作戦)について簡単に話をさせることで、チーム間の伝え合い活動を活発化させたい。さらに、試合をiPadで撮影させ、振り返りの際に自分たちの動きを共有させながら、話し合わせたい。

6. 指導計画 (全6時間)

時間		めあて	学習活動	評価計画
1時	みんなが楽しめるプレルボールをしよう。	プレルボールの仕方を知り、基礎となる練習をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレルボールの動画を見て、プレルボールに関心を持つ。 ・使用する道具やルールについて知る。 ・補助運動の練習を行う。(横移動キャッチ・高さ調節パス・壁プレル) 	知 A
2時		試しのゲームをして、プレルボールに親しもう。	<ul style="list-style-type: none"> ・試しのゲームを行い、プレルボールに親しむ。 ・個人の課題を確認する。 	主 A
3時		試しのゲームをして、チームの課題を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・試しのゲームを行い、チームの課題を考える。 	知 B
4時		上手なパスについて考え、プレーに生かそう。	<ul style="list-style-type: none"> ・上手なパス(つながるパス)について考え、チームとしてそれぞれがどう動けばよいかチームごとの作戦を立てる。 ・立てた作戦をもとに、兄弟チームで練習し、試合を行う。 	思 A
5時 (本時)		上手なアタックについて考え、プレーに生かそう。	<ul style="list-style-type: none"> ・上手なアタックについて考え、チームとしてそれぞれがどう動けばよいかチームごとの作戦を立てる。 ・立てた作戦をもとに、兄弟チームで練習し、試合を行う。 	思 B
6時		今まで学んだことを生かし、楽しくプレルボール大会をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・各チーム3回試合を行い、単元を通しためあての振り返りを行う。 	主 B

7. 本時案

(1) 題材名 ボール運動:プレルボール(5/6)

(2) 主眼 アタックについてのチームの動き(作戦)を、自分のチームの課題に合った「上手なアタック」を選んだり、ホワイトボードを用いて各自の動きを視覚的に捉えたりして話し合い、チームの動き(作戦)を意識してプレーすることができるようにする。

(3) 展開

過程	学習活動	指導及び留意点	評価規準										
導入	1. 準備をし、本時のめあての確認をする。(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○用具の準備 ○準備運動をさせる。(アングルホップ、ももあげ、うでふり) ○補助運動をさせる。(横移動キャッチ、壁プレル) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>め 上手なアタックについて考え、プレーに生かそう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までに挙げた「上手なアタック」について確認した後、課題につなげる。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>上手なアタック</th> </tr> <tr> <td>①相手のいないところへ打つ</td> </tr> <tr> <td>②ネットにかからない</td> </tr> <tr> <td>③速いアタック</td> </tr> <tr> <td>④低いアタック</td> </tr> </table>	上手なアタック	①相手のいないところへ打つ	②ネットにかからない	③速いアタック	④低いアタック						
上手なアタック													
①相手のいないところへ打つ													
②ネットにかからない													
③速いアタック													
④低いアタック													
展開	2. 課題を確認し、上手なアタックについて考える。(5分) 3. 自分たちのチームに合った上手なアタックを選び、作戦を考える。(7分) 4. 兄弟チームで練習を行う。(8分) 5. 試合を行う。(10分)	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>課題 上手なアタックを打つためには、どうすればよいかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○「上手なアタック」のコツや、打つ人以外のコツについて問う。(予想される児童の意見) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>コツ</th> <th>打つ人以外のコツ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑤打ち分けのコントロール(体の向きの工夫)</td> <td>⑨空いているところを教える(声かけ)</td> </tr> <tr> <td>⑥ネットの近くから打つ(場所の工夫)</td> <td>⑩トスをネット近くで</td> </tr> <tr> <td>⑦腕を速く振る(力の工夫)</td> <td>⑪バウンドの高いパス(走りこんで打つため)</td> </tr> <tr> <td>⑧地面に叩きつけ過ぎない(角度の工夫) など</td> <td>⑫バウンドの低いパス など</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○アタックを打つ人以外の動きについて着目させ、チームの動き(作戦)を考えさせる。 ・自分たちのチームに合った上手なアタックを選択させ、チームの動き(作戦)を考えさせる。 ・ホワイトボードを使わせ、チーム全体の動きを視覚的にとらえやすくする。 ・ワークシートを使って自分たちが取り組むことを明確にさせる。 ○兄弟チームで練習をさせる。 ・お互いの作戦を伝え合わせ、練習中に作戦がうまくいっているかどうかの話ができるようにさせる。 ○確認したアタックの工夫やチームの動きを意識させながら、2試合を行う。 ・振り返りの際に確認できるように、ipadで動画撮影させておく。 	コツ	打つ人以外のコツ	⑤打ち分けのコントロール(体の向きの工夫)	⑨空いているところを教える(声かけ)	⑥ネットの近くから打つ(場所の工夫)	⑩トスをネット近くで	⑦腕を速く振る(力の工夫)	⑪バウンドの高いパス(走りこんで打つため)	⑧地面に叩きつけ過ぎない(角度の工夫) など	⑫バウンドの低いパス など	○自己やチームの特徴に応じた工夫を選択するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(発言・ワークシート)
コツ	打つ人以外のコツ												
⑤打ち分けのコントロール(体の向きの工夫)	⑨空いているところを教える(声かけ)												
⑥ネットの近くから打つ(場所の工夫)	⑩トスをネット近くで												
⑦腕を速く振る(力の工夫)	⑪バウンドの高いパス(走りこんで打つため)												
⑧地面に叩きつけ過ぎない(角度の工夫) など	⑫バウンドの低いパス など												
終末	6. 振り返りをする。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに振り返りをさせる。 ・自分たちのチームの動き(作戦)がうまくいったかどうかを振り返らせる。 ○全体でまとめをする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 上手なアタックを打つには、打つ人だけでなく、打つ人以外にもコツを意識してうごけばよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○全体で振り返りをし、次時につなげる。 											

7. 板書計画

みんなが楽しめるプレルボールをしよう。

㊦ 上手なアタックについて
考え、プレーに生かそう。

単元計画

ルール

㊦ 上手なアタックを打つためには、
どうすればよいかな。

上手なアタック

コツ

打つ人以外のコツ

相手のいないところへ打つ

打ち分けのコントロール

声かけをする

ネットにかからない

ネットの近くから打つ

トスをネットの近くで

速いアタック

うでを速くふる

バウンドの高いパス

低いアタック

地面にたたきつけすぎない

バウンドの低いパス

基本のルール

- ・1試合3分
- ・4人チームのうち、コートに入るのは3人。
- ・サーブは両手下投げで投げ入れる。交互に行う。特定の人がサーブを行わないようにする。
- ・3回で相手コートに返す(全員一回ボールに触れる)。←全員参加の観点から
- ・3回目(アタッカー)以外はボールをキャッチしてもよい。ただしキャッチできる時間は1秒間程度。
- ・ミスをしたリ、ワンバウンドまでに捕れなかったりしたら、相手チームに1点。
- ・点が決まったら、両チームローテーションで控えメンバーと入れ替わり。

(1)租税教室の経過




《令和3年度》

	1回目	2回目
第2学年	令和3年12月14日(火)	中止
第4学年	令和3年12月9日(木)	中止
第5学年	令和3年12月17日(金)	中止
第6学年	令和3年11月16日(火)	令和4年1月20日(木)

《令和4年度》

	1回目	2回目
第2学年	令和4年6月14日(火)	令和4年9月15日(木)
第4学年	令和4年6月8日(水)	令和4年7月1日(金)
第5学年	令和4年6月22日(水)	令和4年9月13日(火)
第6学年	令和4年6月7日(火)	2学期実施予定

(2)《令和3年度》第6学年 租税教室(2回目)

【実施日】令和4年1月20日 3・4時間目	【場所】体育館	【講師】税務署・選挙管理委員会
	<p>1. 税金についての講義(税務署)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金が使われているものは? ・みんなが安心して暮らすための費用は誰が負担しているのだろうか? 	
	<p>2. 選挙についての講義(県選挙管理委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙管理委員会とは? ・DVD「まなべ!センキョッキョ」視聴 ・選挙クイズにチャレンジ! 	
	<p>3. 模擬投票(市選挙管理委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めいすい町長選挙」 ・投票、開票体験 <p>4. 質疑・応答・感想</p>	

児童の感想



今日は選挙についての授業を受けて選挙の大切さを改めてよく分かりました。僕は将来投票しようかなという気持ちになりました。僕は若くは若くは投票しにいていないのでゲームなどが投票いけはいいかと思いました。選挙に対する知識は少ないのでよかった。クイズもたのしかったです。

私は選挙の大切さがよく分かりました。自分自身選挙で何なのかな?と思っていたけれど、今日知ることができました。将来投票に絶対行こうと思います。今は選挙権がないので親に選挙に行って!!と言おうと思います。今日は本当にありがとうございました。

(3) 令和 4 年度


第2学年 租税教室

【講師】大分税務署 納・後藤・力徳

① 【実施日】令和4年6月14日3・4時間目	② 【実施日】令和4年9月15日 3・4時間目
<p>1. オリジナル紙芝居 「ダナの森ものがたり」</p>  <p>2. 税にまつわるクイズ ① 「税金ドリル」</p> <ul style="list-style-type: none">・「消費税」・「公園」「警察」「消防」「道路・水道」など、みんなの生活を支えるために、税金は使われている。・学校で学ぶためにも、たくさんの税金が使われている。 <p>3. 税にまつわるクイズ ②</p> <ul style="list-style-type: none">・「学校の中で税金が使われているもの」を絵の中から見つける <p>4. 感想を書く。</p>	<p>1. 前回の教室のおさらい</p> <p>2. オリジナル紙芝居 「しあわせの あおい ふうせん」</p> <p>3. 税にまつわるクイズ</p> <ul style="list-style-type: none">・みんなの生活を支える「公園」「警察」「消防」「道路・水道」などは、税金で成り立っており、一人ひとりが直接お金を払うことはない。(外国の例も)  <p>4. 感想を書く。</p>



【児童の感想】

- ・自分のお金を出し合って幸せな生活をしていけばいいとわかった。税金はとても大事なものなんだとわかった。
- ・税金は、みんな払うお金ということを、初めて知った。50種類あるということや学校のものは、税金で買っていることがわかった。
- ・消費税が税金ということや学校が税金でできていることを、初めて知った。
- ・みんなで協力して、建物を建てたり人を雇ったりするお金を出すから、町がどんどん平和になって暮らしやすくなる。
- ・税金がお金で、みんなのためになっていることを初めて知った。
- ・キツネみたいに「いやだ」と言わないようにする。税金を大事にする。
- ・最初は、キツネは悪いと思ったけど、キツネが「税金が大事なもの」だと気づいてよかった。
- ・税金を出し合うときは、ちゃんと全員出すということがわかりました。
- ・みんなでお金を出し合って作るということがわかりました。一人でもお金の出さないと、できないこともあるからお金を出す。
- ・自分勝手にしないことや助け合うことが大切だとわかった。

<p>① 【実施日】令和4年6月22日 3・4時間目</p> <p>1. 「くらしの中の税金」について ・税金の種類について</p> <p>2. 「自分たちの生活と税金のかかわり」について</p> <p>税金がなかったら、どのような世界になるのか。</p> <p>・DVD 視聴「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 ・身の周りで税金が使われているもの、いないものについて ・公立小学校における一人当たりの子どもの教育費について ・公立小学校の建設費について</p> <p>3. まとめ</p> <p>4. 「1億円のレプリカ」の重さ体験</p> <p>5. 質疑・応答・感想発表</p>	<p>② 【実施日】令和4年9月13日 3・4時間目</p>  <p>1. 「税金について考えてみよう」 ・税金の種類について ・海外の意外な税金について</p> <p>2. 「自分たちの生活と税金のかかわり」について</p> <p>・DVD 視聴「千年の約束」 ・税金でまかなわれているものや施設、サービスにはどのようなものがあり、何のためにあるか。 ・税の意義や役割について</p> <p>3. まとめ 「みんなが安全で安心して豊かに生活していくための必要な会費のようなもの」</p> <p>4. 「1億円のレプリカ」の重さ体験</p>
--	--

【児童の感想】

- ・どこの国にも必要で、すごく大切なものだと思います。たくさんのが税金でできていることが知れて、すごいと思いました。
- ・税金とは、みんなが安心して生活するためのものだと思います。
- ・税金が50種類もあるとは思わなかったです。私たち子どもも実は、税金を払っているということを初めて知りました。
- ・消費税や所得税などいろいろな種類の税金があることが分かりました。
- ・海外では、おもしろい税金の種類がありました。ネコ税もあるのか気になりました。
- ・負担を分かち合って税金を払うということは、すごく大事なことだと思います。
- ・「千年の約束」を見て、税金で作られている物や使われている場所が身近にたくさんあることが分かったので、うれしかったです。
- ・それぞれどのくらい税金を払っているのか、具体的な値段を知りたくなりました。
- ・小学校や交番など、多くの場所で税金が使われていることがよく分かりました。
- ・前より税金のことが今日の授業でよく分かったので、うれしかったです。大人になったら税金を必ず払いたいと思います。

① 【実施日】令和4年6月8日 3・4時間目	② 【実施日】令和4年7月1日 3・4時間目
 <p>1. 税金が使われているものって何だろう ・公共施設と民間施設の違い ・公共サービス・公共事業について</p> <p>2. みんなが安心して暮らすための費用はだれが負担しているのだろう ・税金の種類について(間接税・直接税)</p> <p>3. 税金の集め方や使い道はだれが決めているのだろう ・DVD 視聴「千年の約束」</p> <p>4. まとめ</p>	<p>1. 税金って何だろう ・DVD 視聴「おじいさんの赤いつぼ」 ・税金の使われ方</p> <p>2. 税金はどのように使われるのだろう ・税金の種類 ・国の予算・県の予算の使い道</p> <p>3. もしも税金を納めなかったらどうなるのだろう ・国のきまり ・税金の未来</p> <p>4. まとめ</p> 

【児童の感想】

- ・税金が学校とかに使われるのは知っていたけど、コンビニとか使っていないものがあることが分かった。
- ・税金の種類がたくさんあることが分かった。もっとどんなものがあるか知りたい。
- ・税金がいろいろなことに使われているのが分かった。
- ・税金をはらわないと、社会が回らないと思った。税金は日本を支える大切なお金。
- ・税金はみんながはらわないといけない。国を支える大事なお金だと思った。
- ・税金をわざとはらわないと、たいほされるほど大事なものとわかった。
- ・税金がないと、学校に行けなくなったり安全に暮らせなくなったりするのかなと思いました。
- ・消防車を呼ぶのに、1回4万円もかかるのがびっくりした。税金がなくなったら困ることがあることが分かった。

① 【実施日】令和4年6月7日 3・4時間目

1. 一緒に考えよう

- ・税金が使われているものって何だろう？
- ・みんなが安心して暮らすための費用は誰が負担しているのだろう？
- ・税金の集め方や使い道は誰が決めているのだろう？
- ・公立小学校における一人当たりの子どもの教育費について
- ・公立小学校の建設費について

2. 税金が使われているものって何だろう？

- ・民間企業と国・地方公共団体
- ・公共サービス、公共施設、公共工事

3. みんなが安心して暮らすための費用は誰が負担しているのだろう？

- ・税金の種類
- ・どうして税金はたくさん種類がある？

4. 税金の集め方や使い道は誰が決めているのだろう。

- ・DVD で勉強しよう
- ・選挙の仕組み

5. まとめ



【児童の感想】

- ・「税金」は国が集めて、公園や学校などに、みんなが使えるようになっていたと思った。少し難しかったけど、なんとなく理解しました。
- ・税金がないと道路を通るだけでお金がかかったり、することすべてにお金がかかるので、税金はとても大切だと思います。
- ・「税金」は、自分たちが生きる上での一番の支えになっているものだと思います。講師の方の話が分かりやすかったです。
- ・「税金」は色々あって、民間企業には法人税、直接税、間接税、国税、地方税などがあることを知りました。税金は50種類あって、税金はとても大切だと思います。

Ⅲ 研究のまとめ



まなび部 成果と課題

1. 令和3年度

(1) 部会研究仮説とめざす子ども像

<p>○研究仮説</p> <p>数学的活動において、子どもたちの声から課題を生み出し、自分の考えをノートに書かせ、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを持ち、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。</p> <p>○めざす子ども像</p> <p>よく考えて学びを深める子ども</p>
--

(2) 成果と課題

①課題の設定<子どもの声から課題を生み出す>

教師の立場	子どもの姿
<p>○子どもの発言から課題を生み出すことができた。</p> <p>○前時との違いから課題を生み出すことができた。</p> <p>●「大きさ」「形」の視点はなぜしないのか、説明があってもよかった。</p> <p>●今回の深める課題は、練習問題の内容であった。</p>	<p>○全員分の三角形を掲示することにより、子どもたちのなかま分けしたいという思いが生まれた。</p> <p>○深める課題から子どもたちは、長さを実際に計ることが大切と理解を深めた。</p>

②伝え合い活動<自分の考えをもつ・伝え合い活動の工夫>

教師の立場	子どもの姿
<p>○考えをもてない子どもへのヒントカードを用意していたのがよかった。(合理的配慮)</p> <p>○子どもが困っているとき、ペアで相談する時間をとってタイミングがよい。</p> <p>○子どものつまずきや戸惑いを教師が全体に広げて一緒に考えていたのがよかった。</p> <p>●課題解決への見通しや時間の確保が必要である。</p> <p>●算数用語を用いた分かりやすい説明が必要である。(算数貯金箱)</p>	<p>○見通しをもたせることで、自分の考えを「言葉・式・図」で表すことができた。</p> <p>○ペアで仲間分けを何度も考えたり、お互い説明し合ったりする姿がよかった。</p> <p>○ノート交換で意見交流を行うなど、その時にできる伝え合い活動に取り組んだ。</p> <p>○説明リレーや他者説明を行うことで一人の考えをより共有することができた。</p> <p>●自分の困りを相手に伝えることができるようになってほしい。</p> <p>●ホワイトボードなどで分類した方がよかった。</p>

③その他

教師の立場	子どもの姿
<p>○自分の作った三角形を黒板に掲示することで、子どもの主体性が増した。</p> <p>●仲間分けしたものを板書上で囲っておくとよかった。</p> <p>●板書の文言、まとめ方。</p> <p>●板書の工夫</p> <p>●デジタル教科書の活用(特に図形)</p>	<p>○全学年、全教科、統一された板書に取り組むことができた。</p> <p>めあて 課題 まとめ ふりかえりの構造化した板書。</p> <p>○自分の考えを掲示されることで、子どもの主体性が増していた。</p>

2. 令和4年度

(1) 部会研究仮説とめざす子ども像

<p>○研究仮説 数学的活動において、子どもたちの声から課題を生み出し、自分の考えをノートに書かせ、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを持ち、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。</p> <p>○めざす子ども像 よく考えて学びを深める子ども</p>
--

(2) 成果と課題

①課題の設定< 子どもたちの声から課題を生み出す >

教師の立場	子どもの姿
<p>○子どもが引き受けやすい題材となっていた。</p> <p>○生活に関連した課題で、意欲につながっていた。</p> <p>○既習事項(前時の学習内容)との違いに着目させ、課題を生み出すことができた。</p>	<p>○子どもたちの声から困りが生まれ、課題への流れがスムーズだった。</p> <p>○前時の学習との違いに気づき、その違いを多くの子どもがつぶやいていた。</p>

②伝え合い活動<自分の考えを持つ・伝え合い活動の工夫>

教師の立場	子どもの姿
<p>○見通しやヒントカードを用意したことにより、自分の考えを「言葉・図・式」で表すことができた。</p> <p>○子ども一人ひとりの意見を大切にしている(引き出そうとする)姿がある。</p> <p>○資料の提示の仕方などによる板書が的確で分かりやすい。</p> <p>●iPad による教材提示のみでは、視覚に残らないので、提示の仕方に気をつける必要がある。</p>	<p>○自分の考えを口に出してつぶやく子が多く、意欲的に活動していた。</p> <p>○ペアトークの中で他者説明したことにより、友だちの考えを自分の言葉で説明することができていた。</p> <p>○考えをリレーのようにつなげて発表(説明リレー)することで1つの考えに多くの子どもがかかわることができていた。</p> <p>○iPad の活用が意欲につながっていた。</p>

③その他

教師の立場	子どもの姿
<p>○全体で見通しをもつことで自分の考えを持つきっかけとなり、有効だった。</p> <p>○子どもの困りを見通したヒントカードがあったことで、どの子にも自分の考えを持たせることができた。</p> <p>●発達の段階に応じて、交流するための話型が必要な場合がある。</p> <p>●交流活動の時間配分の工夫をする必要がある。</p>	<p>○自分の見通しが選べたので、次に何をすることが分かっていった。</p> <p>○一人ひとりがどのやり方するか選べていたので自己決定の場となっていた。</p> <p>○ノート交換や iPad を活用した意見交流により、友だちの考えを知ることができた。</p> <p>●全体交流の場で、説明する力にはバラつきがある。</p>

3. 2年間のまとめ

算数科の授業を通して、児童は見通しや手立てから自分の考えをもつことができたことにより、課題解決に向けて、主体的に取り組むことができるようになってきた。その中で伝え合い活動を工夫したことにより、児童は自分の考えと友だちの考えを比較したり、関連付けたりしたことで自分の考えを更に深化させることにつながった。今後も、ペアトークやノート交換で全員に自分の考えを説明する場を設定したり、他者説明や説明リレーから一人の考えにクラス全員で関わるようにしたりといった伝え活動の工夫を行うことにより、本校のめざす子ども像である「よく考えて学びを深める子ども」を育てていきたい。

こころ部 成果と課題

1. 令和3年度

(1) 部会研究仮説とめざす子ども像

<p>○研究仮説 道徳科において子どもが考えたいような課題を設定し、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを深め、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。</p> <p>○めざす子ども像 自分の行動を振り返り、周りを思いやる子ども</p>

(2) 成果と課題

① 課題の設定<子どもが考えたいような課題の設定>

教師の立場	子どもの姿
<p>○資料を通して、教師が何を考えさせたいかをはっきりさせる。子どもたちのゴールの姿をイメージさせることができた。</p> <p>●教材から、子どもたち自身が考えていきたいことを課題にするとよかった。(子どもの声から作り出す課題)</p>	<p>○道徳的価値に焦点を当て、様々な側面から考えられるような多面的課題(第一課題)を設定することで、子どもから様々な考えが出るようになった。</p> <p>○道徳的価値は大切ではあるが、実現は難しいことをおさえることで、これまでよりは、自分事として多角的発問(第二課題)を考えられるようになった。</p>

② 伝え合い活動<伝え合い活動の工夫>

教師の立場	子どもの姿
<p>○教師の問い返しも考えをつないだり、比べたり、広げたりするのに有効だった。</p> <p>○授業の流れ・思考の流れが分かる構造的な板書が有効だった。</p> <p>●多様な考えが出されたあとや、道徳的価値を自分事として受け止めたときに、それについてさらに考えたり、議論したりする場がもてなかった。</p> <p>●ねらいや資料に合わせた構造的な板書をさらに工夫する。</p> <p>●ICT 機器、ハートメーター、心情メーターなどは、意図をもって活用する。</p>	<p>○相手の話を傾聴するなど、反応できる子どもが増えた。</p> <p>○動作化や役割演技を取り入れることで、子どもたちが登場人物になりきることができ、自分の事として捉え、心情に迫ることができた。心情を考えることが苦手な子どもも考えやすくなった。</p>

③ その他

教師の立場	子どもの姿
<p>○導入で生活経験と結びつけることで、自分の生活を振り返らせることができた。</p>	

2. 令和4年度

(1) 部会研究仮説とめざす子ども像

<p>○研究仮説 道徳科において子どもが考えたいような課題を設定し、伝え合い活動を工夫して取り入れれば、自分の考えを深め、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。</p> <p>○めざす子ども像 自分の行動を振り返り、周りの人や物を思いやる子ども</p>

(2) 成果と課題

① 課題の設定<子どもが考えたいような課題の設定>

教師の立場	子どもの姿
<p>○ハートメーターやペープサート等を用いて登場人物の心情を理解させ、ねらいを意識させた上で、子どもの疑問を基に課題を設定した。</p> <p>●子どもにとって自分事として考えにくい場合は、どの様に引き付けるか。(アンケート等で身近な事と捉えるか)</p>	<p>○ペープサート、ハートメーターを用いて、場面把握・心情理解により、課題を捉えやすくなった。</p>

② 伝え合い活動<伝え合い活動の工夫>

教師の立場	子どもの姿
<p>○ワークシートやノートを交換させることで、多様な考えを持たせるようにした。</p> <p>○役割演技をしたり、「どういうこと?」「どうして?」などと問い返したりすることで、考えを深める手立てとした。</p> <p>●板書への位置づけや挙手による、全員の立場を明確にさせる手立てが必要である。</p>	<p>○考えを持った子どもは自信につながり、まだ持っていない子どもは、考えを持つ手がかりになった。</p> <p>○問い返しの発問により、より深く考えたり、自分の考えを比較したりすることができた。</p> <p>●発言できていない子どもの考えが共有化されていなかった。</p>

③ その他

教師の立場	子どもの姿
<p>○Y チャートなどを用いることで、子どもの考えが分かりやすく板書されていた。</p> <p>○子どもが意欲的に取り組めるような声掛けやスタンプを押すなどの手立てがあった。</p> <p>●終末の振り返りを書いた後に、伝え合うための時間の確保。(導入の時間配分)</p>	<p>○友達の発言に対して反応しながら、聞き合う姿が見られた。</p> <p>○子どもが自分の考えをしっかりと持つことができたので、発言やつぶやきが多く見られた。</p> <p>●考えを出し合ったり、話し合ったりする時間がもう少しあるとよかった。</p>

3. 2年間のまとめ

道徳科の授業を通して、児童は、友だちの考えに耳を傾け、反応(うなづき、あいづちなど)しながら、進んで伝え合うことができるようになってきた。友だちから認められることで、自分も相手のことを受け入れようという気持ちが生まれる。また、考えを共有したり、比較したりする手立てを取り入れることで、新しい見方や考え方を知り、自分の考えを広げることができた。さらに、価値の大切さだけでなく、実現することの難しさにも目を向けさせ、自分自身や自分の生活を振り返りながら、自分だったらどうするか、といった視点で考える時間を大切にしてきた。今後も、自分事としてとらえ考える経験を重ねていくことによって、本校のめざす子ども像である「自分の行動を振り返り、周りの人や物を思いやる子ども」を育てていきたい。

からだ部 成果と課題

1. 令和3年度

(1) 部会研究仮説とめざす子ども像

<p>○研究仮説</p> <p>子どもたちに課題を明確にとらえさせ、課題に沿った場の工夫をし、お互いに伝え合う活動をさせることで、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。</p> <p>○めざす子ども像</p> <p>めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子ども</p>
--

(2) 成果と課題

①課題の設定<自分の課題を明確にとらえる(課題に沿った場の工夫)>

教師の立場	子どもの姿
<p>○検証授業では、子どもの困りが明確になるような工夫(単元計画、ルール・教具)があり、困りから課題につなぐことができた。</p> <p>○発達段階に応じて課題を工夫し、思考させる場面を設定できていた。</p> <p>●ICT機器の使用方法が限定されている。動画を撮って確認する以外にも、効果的な使い方ができるのではないか。</p>	<p>○単元を通してのめあてを設定し、子どもたちに単元計画を提示することで、子どもたちは意欲的に学習に取り組むことができた。</p> <p>○ICT機器を効果的に使用することができた。タブレットで自分の動きを確認し、課題を明確にしたり、友だちの動きを一緒に見てアドバイスをしたりする姿が見られた。</p>

②伝え合い活動<伝え合い活動の工夫>

教師の立場	子どもの姿
<p>○「意見のズレを解決する」や「みんなで一緒に〇〇をする」などの目的意識をもたせることで、話し合い活動が活発になった。</p> <p>●話し合いの内容が高まっていないグループもあった。うまくできたグループの考えを共有したり、他チームの意見を板書に示したりするなど工夫を準備しておくことが大切。</p>	<p>○ホワイトボードを使うことで、意欲的に話し合うことができた。</p> <p>●ホワイトボードを有効に活用できていなかった。チームの動きや作戦を俯瞰して見たり、作戦の変化をわかりやすくしたりするために、ホワイトボードの活用が有効。</p>

③その他

教師の立場	子どもの姿
<p>○教師の褒め言葉が子どもの意欲の向上につながっていてよかった。体育に苦手意識をもつ子どもも少なくないので、褒め言葉をたくさん使う授業はとてもよい。</p>	<p>○チームで協力し、一緒に頑張ることが楽しいと感じている子どもがたくさんいた。</p> <p>●話し合い活動や全体の場での発表の時に、声が小さい子どもが増えてきている。</p>

2. 令和4年度

(1) 部会研究仮説とめざす子ども像

<p>○研究仮説</p> <p>子どもたちに自分の課題を明確にとらえさせ、課題に沿った場の工夫をし、お互いに伝え合う活動をさせることで、生き生きと学び合う子どもが育つであろう。</p> <p>○めざす子ども像</p> <p>めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子ども</p>

(2) 成果と課題

①課題の設定<自分の課題を明確にとらえる(課題に沿った場の工夫)>

教師の立場	子どもの姿
<p>○前時までに取り組んだことを丁寧に確認し、そこから課題(作戦)につなげていた。</p> <p>○練習の場の設定がよく効率的に練習ができていた。</p> <p>●チームの課題はそれぞれがもっていたが、全体の課題が明確になっていなかった。</p>	<p>○「パス」という課題の中に様々な練習方法があり、多様なプレーが生まれていた。</p>

②伝え合い活動<伝え合い活動の工夫>

教師の立場	子どもの姿
<p>○ホワイトボードを活用し、児童のポジションを視覚的にとらえさせることで、話し合いが活性化された。</p> <p>○振り返りの場面でiPadを活用したことは効果的だ。</p> <p>●iPadを見る視点を与えると、より効果的な振り返りができるのではないかと。</p> <p>●選択制にすることで取り組みやすくなるが、深い話し合いにはなりにくい。選択制は発達段階や児童の実態に応じて使うとよい。</p>	<p>○全体で作戦を共有したことで、各グループでの話し合いが焦点化された。</p> <p>○作戦を選択制にすることで、話し合いが苦手なグループにも取り組みやすくなっていた。</p> <p>●体育での話し合いにまだ慣れていないのか、声が小さく聞き取りづらい班もあった。</p> <p>●深まった話をする場面ができていない班もあった。話の流れなどを作っておくといいいのかもしれない。</p>

③その他

教師の立場	子どもの姿
<p>○運動量がしっかり確保できていた。</p> <p>●競技に慣れ親しんでいくのにある程度の時間と経験が必要。体育の課題。</p> <p>●多くの貼り物があり、遠くの児童には見えにくかった。見えやすくする工夫が必要。</p>	<p>○ルールを守って楽しもうとする雰囲気が良かった。</p> <p>○試合中の児童同士の声かけやアドバイスの姿がよかった。</p>

3. 2年間のまとめ

体育科の授業を通して、児童は友だちと話し合うことやチームで協力して体を動かすことの楽しさを味わうことができた。その反面、作戦や動きを十分に考えても、自分の体の動きがついていかなかったり友だちと息が合わなかったりする、チーム競技の難しさも感じとっていた。運動経験が少なくなっている児童にとって、困難なことに楽しんで挑戦する経験を積むことができた。今後も、このような経験を重ねていくことによって、本校のめざす子ども像である「めあてをもち、進んで運動や健康増進に取り組む子ども」を育てていきたい。

おわりに

本日は、ご多用の中、本校の租税教育研究発表会へのご参加、ご助言等を頂きまして誠にありがとうございました。今年度は Zoom での授業公開を含めた公開発表ができ、皆様方に広く本校の研究発表会へ参加して頂いたことは大変嬉しく思います。

本校は、公開研究会の研究主題を「自分の考えをもち、生き生きと学び合う子どもの育成～課題の設定と伝え合い活動を通して～」として、2年間の研究を積み重ねて参りました。

授業実践においては、租税教育の目標達成に向けた授業の実現を目指し、子どもの困りや「なぜだろう?」の疑問の声などから課題を生み出すための手立てを研究し、対話を通して課題の解決につなげ、最後まであきらめずに協働して取り組むことができる「集団と社会的自立」の視点を意識した子どもの育成に努めてまいりました。また、体育科の授業では、ICT機器を効果的に使用し、課題に対する自分の考えや思いを明確にしたり、友だちと体の動きを一緒に確認し、互いにアドバイスをしたりする姿が見られ、子どもたちの生き生きと主体的に学ぼうとする姿を見ることができました。

さらに、大分県税務署の方々を講師に招いた租税教室では、紙芝居やクイズ等の興味関心が高まる体験活動を通して、全学年の子どもたちが租税についての正しい知識、理解を深める貴重な学習となり、未来の主権者としての自覚をもつきっかけにもなりました。

本校の2年間の研究が、長いようで本当に短く感じられた日々であります。我々教師の日々の授業実践が、子どもたちの成長にとっていかに大切であるかを改めて実感できました。今後も、本校の研究がさらなるステップアップにつながるような実践を積み重ね、子どもの成長へと還元できるよう、教職員一同努力して参ります。

最後になりましたが、本研究発表会がこれからの大分県租税教育における一躍なることを願い、終わりの言葉とさせていただきます。

令和4年11月

大分市立下郡小学校
教 頭 藤田 光茂

研究同人

令和3年度

【指導・助言者】

大分県教育庁義務教育課

指導主事 吉住 聡

大分市教育委員会学校教育課

指導主事 小田部 晶子

大分税務署

税務広報広報官 納 香保利

税務広報広報官 後藤 謙次

【研究同人】

校長 武津 智美

教頭 藤田 光茂

梅木 美紀

主幹教諭 植田 聖紀

指導教諭 江隈 美佐

伊澤 真紀

教諭 西郷 良子 宗像 恵美

東 葉子 児玉 令子

市川 由美 阿部 啓子

三原 好史 野田 道子

川野みはる 加藤千香子

淡居 優佳 松山 真純

櫻木美津代 池邊 恭子

秋吉 雅代 藤本 祥子

姫野 貴文 遠藤 太輔

竹本 勸人 守光ひとみ

児玉 貴裕 井上 大輔

末廣 綾乃 岩男 和真

赤木 秀 佐藤 優介

御手洗力也 末廣 志穂

安部 修平 大畑 志織

養護教諭 朝見 良恵

栄養教諭 姫野 良子

主幹 浮田 明美

主査 安部 正道

図書館支援員 中山 智子

補助教員 穂好 崇美

志賀久美子 氷室 未来

非常勤講師 山本 恭子

安部 保子

スクールサポートスタッフ 佐藤 智実

令和4年度

【指導・助言者】

大分県教育庁義務教育課

指導主事 吉住 聡

大分市教育委員会学校教育課

参事補 小畑 典子

指導主事 安藤 嘉洋

大分税務署

税務広報広報官 納 香保利

税務広報広報官 後藤 謙次

税務広報広報官 力徳 知展

【研究同人】

校長 野村 尚生

教頭 藤田 光茂

主幹教諭 植田 聖紀

姫野 貴文

指導教諭 江隈 美佐

教諭 西郷 良子 児玉 令子

東 葉子 川野みはる

三原 好史 淡居 優佳

野田 道子 阿南 弘子

櫻木美津代 谷口 裕子

松山 真純 眞鍋 行雄

秋吉 雅代 藤本 祥子

池邊 恭子 八木 梨沙

竹本 勸人 守光ひとみ

遠藤 太輔 下八重裕輔

末廣 綾乃 佐藤 優介

岩男 和真 安部 修平

末廣 志穂 大畑 志織

吉野 遥香 辻 のぞみ

黒川 縁 阿部 真紀

養護教諭 西田小夜香

栄養教諭 姫野 良子

主幹 浮田 明美

主査 安部 正道

図書館支援員 中山 智子

補助教員 穂好 崇美

志賀久美子 氷室 未来

非常勤講師 藤田 典子

スクールサポートスタッフ 佐藤 智実

